

第3編 学 校 別 研 究

【 目 次 】

沼 田 小 学 校	4 9
沼 田 東 小 学 校	5 3
沼 田 北 小 学 校	5 7
升 形 小 学 校	6 1
利 南 東 小 学 校	6 5
池 田 小 学 校	6 9
薄 根 小 学 校	7 3
川 田 小 学 校	7 7
白 沢 小 学 校	8 1
利 根 小 学 校	8 5
多 那 小 学 校	8 9
沼 田 中 学 校	9 3
沼 田 南 中 学 校	9 7
沼 田 西 中 学 校	1 0 1
沼 田 東 中 学 校	1 0 5
池 田 中 学 校	1 0 9
薄 根 中 学 校	1 1 3
白 沢 中 学 校	1 1 7
利 根 中 学 校	1 2 1
多 那 中 学 校	1 2 5
利 南 幼 稚 園	1 2 9
薄 根 幼 稚 園	1 3 3

沼田中学校

所在地 〒378-0053 沼田市東原新町1801番地1
電話番号 0278-23-1116 FAX 22-9856
校長名 木樽 一秀

I 学校の経営

1 学校の教育目標

(1) 学校教育目標 【美しい心 高い知性 強い身体を磨く生徒】

(2) 経営目標

(目指す学校像)

- ・子どもが「通いたい」と思う学校
- ・保護者が「通わせたい」と思う学校
- ・地域の方が「応援したい」と思う学校

(目指す教師像)

- ・生徒のよさを見だし、自ら範を示す教師
- ・夢と情熱をもち、専門性を磨く教師
- ・地域を愛し、地域に学ぶ教師

(3) 本年度の重点目標 『楽喜』

生徒が、学習や練習の過程、行事に向けた学級での活動で「楽」しさを感じ、
学習の成果、学級のまとまりに「喜」びを味わう教育活動の推進。

2 経営方針

- ①質の高い教育活動の推進に向けた組織的な校務運営と教職員の資質向上
- ②自他を大切にし、思いやりと規範意識をもった「豊かな心」の育成
- ③培う資質・能力の明確化と主体的・対話的で深い学びによる「確かな学力」の育成
- ④生涯にわたって運動に親しむ基盤となる「健やかな体」の育成
- ⑤安全で安心な居場所づくりと、潤いのある学習環境の整備
- ⑥地域の次代を担う人材の育成を視野に入れた地域と学校の連携・協働

3 本年度の重点施策

①【沼田市・先生の日】

- ・主任等の指導助言、連絡調整機能の充実と、教職員全員での共通理解・共通実践
- ・参観ウィークや人事評価制度の活用による職員個々の職能成長
- ・特別な配慮を必要とする生徒への組織的・計画的な指導の工夫・充実
- ・業務改善の推進及び部活動運営方針の確実な実施による、働き方改革の推進

②【SNSルール】

- ・校内研修による道徳授業のさらなる改善と学校教育全体を通じた道徳教育の充実
- ・主体的な取組の支援と価値付けによる、自己有用感や自己肯定感の醸成
- ・「凡事徹底」「脚下照顧」「知行合一」の励行と自己の生き方を考える意識の向上
- ・「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を視点とした特別活動の充実
- ・「沼田中学校SNS利用ルール」「SOSの出し方に関する教育」などによる、命を守る心を育てる教育の充実

③【振り返り学習】

- ・指導と評価の一体化による、生徒の実態を踏まえた指導の工夫
- ・ねらいの明確化とねらいの達成につながる学習活動の工夫
- ・「既習事項を活用して、主体的に問題解決を図ろうとする生徒」を踏まえた授業実践
- ・ペアや小集団、ICT活用による、見方や考え方を広げたり、深めたりする授業の実践

④【教育部活】

- ・「体力向上プラン」を活用した、学校課題の解決に向けた取組の充実
- ・主体的に自己の体力向上や技能習得に取り組む、保健体育の授業や体育的行事の工夫
- ・「沼田中学校部活動運営方針」に基づく教育部活動の推進
- ・健康的な生活の実践に繋がる、専門委員会活動、学校保健委員会等の実施

⑤【セーフティ沼田】【命を守り育てる指導】【小中連携・一貫教育】

- ・生徒の危険予測回避能力の育成と職員の安全管理の徹底
- ・熱中症、感染症、食物アレルギー等に対する理解と全校体制による指導や対応の強化
- ・校舎への愛着と誇りをもてる、温かみのある教室環境や花と緑のある校内環境の整備
- ・合同引き渡し訓練(地震想定)や不審者対応訓練を通じた実践的な安全教育の推進

⑥【沼田大好き！ふるさと学習】

- ・学校支援センターを活用した教育の質の向上
- ・様々な分野における地域のエキスパートや外部機関等の専門家を活用した授業の充実
- ・「沼田大好き！ふるさと学習」の充実による郷土を愛する心の醸成

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 自他を大切にし、よりよく生きようとする生徒の育成
副主題 ～道徳科における道徳的価値理解を深める発問の工夫を通して～

生徒の実態との関わり

- ・道徳的価値の理解を深める場面において、検討の深まりや変容を感じる様子がまだ弱い。
- ・実生活に結びつけた振り返りの記述が見られるようになってきたが、考えを「検討し、自己の生き方を見つめ直す」というところまではあと一歩である。

指導の在り方との関わり

- ・道徳的価値に迫り考えを深めるための発問や効果的な切り返し等、これまでの研修の積み重ねを基にさらに改善・検証を行い、指導の充実を図る。
- ・自分事として考え始めるきっかけとなる発問や課題設定の工夫、深まった道徳的価値の理解を基に自己につなげて考えさせる指導の工夫を充実させる。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

「道徳科において自分の考えをもち、他者の考え方を受容・比較・検討しながら、自己の生き方を見つめなおそうとする生徒」と捉え、さらにこの生徒像に迫るために、導入と振り返りでの具体的な姿を設定し、その実現を目指す。

(2) 具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践する手立て

- ・これまでの「深い学びの実現」を目指した研修を生かし「考え、議論する道徳」への質的転換
- ・「道徳的価値理解を深める」ために、各段階において発問の工夫を重点においた指導の改善
導入部での、自分事として捉えさせ、問題意識をもたせた課題設定の工夫
展開部での、じっくり考え議論の必要性を感じさせる発問の工夫と効果的な場面設定の充実
終末部での、自己につなげて考えさせる発問の工夫
- ・今年度の学校経営方針により重点項目を、「C (15) よりよい学校生活、集団生活の充実・D (22) よりよく生きる喜び」とする。
- ・授業実践の積み重ねである「道徳授業づくりシート」を基に、各授業の課題解決に向けた実践と検証を学年で行う。また、各学年での取り組みを全体で共有し、成果と課題のリレーを行う。
- ・「授業研究班」と「評価班」に分かれ、学年の縦のつながりを意識した研修を行う。
- ・「参観ウィーク」を計画的に実施し、教師同士の学び合いを行い高め合っていく。

3 研修計画・経過報告 <裏面>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・「道徳授業づくりシート」により、昨年度からの成果と課題をリレーしながら各学年での授業実践を積み重ね、より充実した指導の改善を図ることができた。
- ・各段階において発問の工夫を行ったことにより、目指す生徒像に近づくことができた。
- ・生徒の学びの姿を基に授業研究会を推進してきたことで、「主体的・対話的で深い学び」が行われているか教師の見取る力や指導力の向上につながった。

○課題

- ・授業づくりの基礎を整えてきた分、授業構成や学習活動が型にはまりすぎてしまいがちである。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・授業づくりの基礎がつくられたので、今後より柔軟で挑戦的な学習活動や指導計画について取り組み、教師個々の強みを生かした授業改善を図っていく。

3 研修計画・経過報告

月 日	研修計画[内容]	経過報告[○研修の視点・明らかになったこと]
4 / 11(月) ①	本年度の研修の確認と組織作り A 訪問に向けての準備	○研修主題、研修内容・方法の検討 ・展開部、導入部に加え、終末部において、深まった価値の理解を基に自己につなげて考えさせる発問の工夫を行う必要がある。 ○目指す生徒像の検討(全教科)
5 / 12(木)	指導主事訪問 A	○個別の授業改善の視点の検証
5 / 23(月) ②	学年授業実践報告(第1回参観W) 専門班の研修計画立案	○学年での授業検証の共有、改善策の検討
 考えが一目でわかるように色付箋で考えを表す	<p>< 1 年 ></p> <p>成果・終末部で実行する難しさを考えさせる発問を行ったことで、自己につなげて考えることができた。</p> <p>課題・主発問に対して出された生徒の答えは、道徳的価値が深まっていたか疑問である。</p> <p>改善策⇒主発問の吟味。なぜそう考えたのか、問い返す。</p> <p>< 2 年 ></p> <p>成果・親の立場から考えさせる発問は、生徒が考え始めた様子が見られ、多角的に考えるきっかけとなった。</p> <p>課題・主発問に対する答えをどのように生かして問い返したりまとめたりしていくか。意見が無駄になる。</p> <p>改善策⇒生徒達自身に大まかにキーワードとしてまとめるなど、生徒の意見を生かすまとめを行えるように工夫する。</p>	
 話し合ったことをキーワードにする	<p>< 3 年 ></p> <p>成果・グループ活動で、意見交流した内容をキーワードにまとめることで、話し合いが更に深まった。</p> <p>課題・ホワイトボードは、時間短縮になるが黒板に貼ると文字が小さく共有しづらい。</p> <p>改善策⇒ボードの写真をとってロイロノートで共有させる。</p>	
6 / 6(月) ③	班別研究 学年授業に向けた指導案検討会	○指導法の工夫や評価方法等の検討 ○指導案に基づく授業改善策の検討
6 / 27(月) ④	学年授業実践報告(第2回参観W) 学年授業に向けた指導案検討会	○学年での授業検証の共有、改善策の検討
 メンチメータで共有	<p>< 1 年 ></p> <p>成果・キーワードをしっかりと押さえられたので、発問に対して生徒は考えやすかった。</p> <p>課題・発問が 2 段構成だったので、想定より生徒の考えが具体的に次の主発問がなくてもよいくらいになった。</p> <p>改善策⇒中心発問を聞かずに、生徒のつぶやきを拾って「本当の思いやりとは何だろう」のような発問をして深める。</p> <p>< 2 年 ></p> <p>成果・自己の経験について終末でもう一度触れたことで、自分は今からどうしていきたいかを考えられた。</p> <p>課題・主発問「お婆さんが私にくれた心」とは？だと、お婆さんの行動に注目する生徒が多くなってしまった。</p> <p>改善策⇒「私は自分が後悔した経験から…」と発問することで、主人公がしてしまったことに目を向けさせる。</p>	
 ベン図に自分の立場(考え)を示す	<p>< 3 年 ></p> <p>成果・展開部で、グループボードを活用して資料を提示したことで、忠敬の強い思いに気付かせられた。</p> <p>課題・資料の内容が難しく読み取りに時間がかかり、主発問から自分事へと考えさせる場面で深まらない。</p> <p>改善策⇒読み取りの大事な部分は教師主導で簡潔におさえ、自分事として考える時間を確保する。</p>	

7 / 11(月) ⑤	指 学年実践授業に向けた指導案 検討会 (学年部会)	○これまでの成果と課題をふまえた授業検討
適宜	指 安藤教諭B訪問 (学年部会) 指 学年授業の指導案検討会	○指導案に基づく授業改善策の検討 ○これまでの成果と課題をふまえた授業検討
8 / 26(金) ⑥	2学期の計画 指 安藤教諭B訪問 (全体会)	○研修計画・学年授業計画の確認 ○指導案に基づく授業改善策の検討
8 / 29(月) ⑦	生徒支援講演会 講師 SCSV 原澤幾子先生	○講演「自傷行為の背景と対処法」
9 / 26(月) ⑧	指 安藤教諭B訪問 (全体会)	○指導案に基づく授業改善策の検討
9 / 30(金)	教育課程実践検証協力校事業 文部科学省飯塚調査官訪問指導  互いの考えを伝え 合い一緒に考える 自己とつなげて 振り返る	○学年での授業検証の共有、改善策の検討 ○調査官より指導助言 ・活動を生徒に任せる所まで学びが高まっている。発問にとらわれすぎずにとことん話し合わせるなど柔軟な展開にも挑戦して欲しい。 ・研修がしっかり行われている。次は教師の自由な発想で授業づくりをするとよい。
10 / 11(月) ⑨	指 安藤教諭B訪問 (全体会) B訪問授業準備・確認	○模擬授業による授業改善策の検討 ○授業での「生徒の学び」の見取り方の検討
10 / 21(金)	指導主事訪問B 授 3年道徳 安藤千雨教諭  自分事として課題を 捉える導入の工夫 生徒の学びの姿で 見取る授業研究会	○授業研究による授業改善策の検証 ・導入部では、アンケート結果を提示したことで、課題を自分事として捉えることができた。見通しをもたせるために、補助発問をもう少しするとよいと感じた。 ・展開部では、中心発問について自分の考えをもたせたことで、問い返しや話し合いを通じて考えを深め、変容していく自己を実感できていた。 ・終末部では、展開部で十分深まった考えを基に本時の課題に戻る発問をすることによって価値についてそれぞれが深まった考えを表すことができていた。
11 / 7(月) ⑩	B訪問後の成果と課題の確認 指 学年授業検討会	○これまでの成果と課題のまとめ ○授業研究による授業改善策の検討
12 / 5(月) ⑪	研修のまとめ	○研修についての職員アンケート分析 ○専門班毎の成果と課題・今後への引継ぎ
1 / 10(火) ⑫	次年度研修の方向性について	○次年度の研修の方向性についての検討 ・本校生徒の実態と課題について共通理解
2 / 6(月) ⑬	資質向上研修講座 講師 木樽一秀校長先生	○講演「教職38年を振り返って」 ・先輩に学ぶ

<職員一覧>

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	木樽 一秀	教諭	下田 勝己	教諭	鈴木 英樹	事務主事	金子 真紀
教頭	上原 昌弘	〃	河合 恵	〃	藤谷 直道	スクールカウンセラー	阿左見康成
教諭	岡田 秀久	〃	瀧澤 裕志	〃	深井 優介	スクールソーシャルワーカー	板坂まち子
〃	橋爪 哲也	〃	田邊 真司	〃	唐沢 大将	心の教室相談員	瀧間 京子
〃	吉川 陽子	〃	須藤 陽介	〃	櫻井 陽希	学校教育支援員	小林紀美枝
〃	篠崎 真理	〃	山田 美穂	〃	阿部 亮一	〃	萩原ちづる
〃	飯野 智	〃	生方裕一郎	〃	本田 祐子	〃	松井 彩
〃	栗原 伸明	〃	安藤 千雨	養護〃	真船由美子	主任用務員	原田 徳樹
〃	大竹 訓子	〃	鈴木 元気	統括補佐事務長	森下 直樹		

沼田南中学校

所在地 〒378-0015 沼田市戸鹿野町726番地
電話番号 0278-23-5557 FAX 22-9857
校長名 根岸 浩文

I 学校の経営

1 学校の教育目標

〈基本目標〉 人間尊重の精神を基盤に、地域や国際社会に生きる自覚を高め、心豊かで逞しく活力ある生徒を育成する。

〈具体目標〉 「英知」・・・知性を磨き、創意を生かして考える生徒
「礼節」・・・秩序を守り、感謝と思いやりをもつ生徒
「強健」・・・心身を鍛え、明るく活動する逞しい生徒

〈経営目標〉 新しい生活様式の下での教育活動の推進・充実

2 経営方針

- (1) 一人一人のよさを大切に、自己有用感を高めるための教育活動の推進
- (2) 地域に愛される学校を目指した、家庭・地域ならびに小学校との連携強化
- (3) 各主任を中心とした組織の活性化ならびに教職員間の協力体制の強化
- (4) 全教育活動を通して行う「生徒の命を守り、育てる教育」の推進
- (5) 教育課程の適正な編成と確実な実践及び適切な評価と改善

3 本年度の重点施策

(1) 「知性を磨き、創意を生かして考える生徒」の育成

①積極的な授業改善

- ・習熟度に応じた指導の充実と生徒主体の学び合いの場の確保（問題解決的な学習の推進）
- ・ねらいの明確化と振り返り学習の確実な実施

②学習意欲の高揚と学習習慣の確立

- ・学力向上正副コーディネーターを核とした組織的・計画的な学力向上への取組
- ・授業と放課後学習・自主学習と関連付けた学びのサイクルの確立
- ・図書室の活用による読書活動の確立

③特別支援教育の充実

- ・個別の指導計画等の作成・活用と職員の連携を図った特別支援教育の充実
- ・保護者との綿密な関係づくりと関係諸機関との連携を図った支援体制の強化

(2) 「秩序を守り、感謝と思いやりをもつ生徒」の育成

①積極的な生徒指導

- ・生徒の心に寄り添う積極的な生徒指導の推進と外部機関と連携を図った相談活動の充実
- ・問題が起こったときの適切・迅速かつ組織的な対応と報告・連絡・相談・記録の徹底
- ・SNSルールの活用を中心とした情報モラル教育の充実

②全教育活動における道徳教育の推進と特別活動の充実

- ・「考え、議論する」道徳の授業へ向けた指導の工夫・改善
- ・生徒が主体的に活動できる場の設定と認め賞賛することによる、自己有用感を高める特別活動（学校行事、生徒会活動、学級活動）の推進

(3) 「心身を鍛え、明るく活動する逞しい生徒」の育成

①「体力づくり推進モデル校」指定の成果を生かした積極的な取組

- ・新体力テスト等の結果を生かした保健体育科の授業の工夫・改善
- ・小学校と連携した組織的、計画的な体力づくりの推進
- ・自らの健康維持・管理に取り組む自己管理意識の高揚

②健康・安全教育の充実

- ・避難訓練（引き渡し訓練）の工夫等による日常生活における危険回避能力の育成
- ・食事の見直しを中心とした食生活の改善と自律的な生活習慣の確立

(4) 地域に開かれた信頼される学校づくり

①キャリア教育の推進

- ・「沼田市に生きる」をテーマにした総合的な学習の時間の計画的な推進
- ・体験を生かしたキャリア教育の計画の整備と充実及び地域人材等の活用

②地域に愛される学校を目指した協力体制作り

- ・学校・学年・学級だよりやホームページ、H&Sによる情報発信の推進
- ・積極的なボランティア活動への参加などによる福祉活動の充実

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 進んで伝え合い考えを深められる生徒の育成
副主題 ～学び合いの場の工夫を通して

生徒の実態との関わり

- ・これまでの実践では、話し合いの内容を多角的に共有できるが、生徒一人一人が深く考えることが難しい様子が見られた。
- ・意見交流をする際に自分の考えを伝える力が乏しい様子が見られる。考えを深めるための話し合いをするには、自分の考えをわかりやすく伝えると共に相手の意見をしっかりと聞く必要がある。

指導の在り方との関わり

- ・一人一授業の「成果と課題」の中で、学び合いの場の工夫が課題になることが多かったので、授業改善に向けて今後も継続して「学び合いの場の工夫」を授業づくりの重点に据える必要がある。
- ・学び合いの場で、ICTやホワイトボード等、その都度適したツールの工夫を幅広く検討することが必要である。

2 研修内容・方法

(1) 具現化した目指す生徒像

学び合いの場において、進んで考えを伝え合うことで、自らの考えを見直し、深めていくことができる生徒

(2) 具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践する手立て

- ・各教科の「見方・考え方」を働かせて、学び合いの中で問題解決に向かえる授業改善を行う。
- ・各教科における目指す生徒像を見直し、考えを深めている姿を教科部会で具体化する。
- ・学び合いの中で、進んで伝え合いが行えるよう、ICTやホワイトボードなどのツールを活用する。

3 研修計画・経過報告 <裏面>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・「見方・考え方」を明確にすることで、生徒も学び合いの中で考えを深めることができている。
- ・ICTを使うことで、生徒が自分のペースで課題に取り組むことができるようになり、積極的に学習に取り組む姿が見られるようになった。
- ・ICTの活用例を紹介したり、全体で研修することで、昨年度以上に授業での活用例が増えた。

○課題

- ・考えを深められる学び合いができるように、効果的にICTを使った手立てを工夫できるとよい。
- ・ICTをさらに活用できるよう、教師のスキルアップをする必要がある。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・ICTを使った授業公開に参加するなど、活用例について情報収集し、学び合いの手立てとなる活用方法について研修を行っていく。
- ・校内研修の中で、実際にICTを使った例を体験することで具体的に使い方を学べるようにしていく。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [〇研修の視点(上段)・明らかになったこと(下段)]
4.144.2 5	・昨年度までの研修経過の確認 ・研修主題、課題、内容、計画の方向性の確認	〇昨年度の成果と課題や教師側の研修希望アンケートの確認 〇目指す生徒像とそれに向かうための手立ての吟味 ・考えを深めるためには、各教科の「見方・考え方」をはたかせるような学習活動を授業者が明確にすることが必要である。
5.16	・一人一授業の実践に向けて(指導案の様式等の確認)	〇今年度における授業実践の仕方について ・学び合いの工夫や、生徒に取り組みせる「見方・考え方」が分かるように指導案に取り入れていく。
5.30	・指導主事要請訪問A	・単元ではたらかせたい「見方・考え方」を明確にする。意図的な問いかけや発問をする。その学習のよさを自覚させる。
6.13	・NRT 学力調査の分析(生徒の実態把握)	〇学力向上につながるように、各教科の課題を明らかにし、全校で共有することで教科横断的に解決に取り組む ・計算力を中心に基礎的・基本的な力を身につけていく必要がある。
7.12	3年英語 授林教諭 ・記者会見を開こう	〇ICTを使って質問を考えさせたことの有効性 ・相手の考えを引き出す質問をするためにはどうしたらよいかを考えさせることで、考えを深めることができていた。
7.13	2年英語 授藤井教諭 ・Taste of Culture	〇ICTを使った発表練習での学び合いの有効性 ・「おすすめする国」のプレゼンテーションについて、どのように伝えれば良いのか考えることで、深い学びにつながっていた。
9.2	2年理科 授内田教諭 ・植物のからだ	〇ICTを使って実験結果を考えさせる有効性 ・タブレットを使って実験結果を比較して考えることができ、根拠を基に自分の考えを書くことができた。
10.14	1年社会 授小嶋教諭 ・ヨーロッパ州	〇ペアや全体での学び合いの有効性 ・既習事項を活用し、EUの統合による効果と課題のそれぞれについてまとめることができた。
10.20	2年国語 授大関教諭 ・徒然草	〇ICTを使った話し合い、全体共有の有効性 ・ICT機器を使うことで、情報交流や共有が短時間で、効率よく行うことが出来、学び合いの時間確保に繋げることができた。
11.1	1年数学 授松井教諭 ・比例と反比例	〇ICTを使った考え方の交流の有効性 ・ICTの効果的な活用(考え方の共有、表・式・グラフの比較など)により、生徒が自分の考えを再確認するきっかけになったり、苦手意識を持っている生徒が達成感を味わったりすることができ、深い学びにつながった。
11.7	2年美術 授男沢教諭 ・立体的な平面構成	〇ICTを使った班での話し合いの有効性 ・絵の鑑賞についてのグループでの話し合いで、自分では思いつかない意見を知り、最後の自分の考えが深められていた。
11.11	2年家庭 授小林美教諭 ・災害への備え	〇ICTを使って避難行動を考えさせる有効性 ・ICTのポートフォリオとしての役割も果たしていたので、本授業の深まりがあった。
11.17	2年国語 授角田教諭 ・平家物語	〇ICTを使った交流や前時とのつながりの有効性 ・シンキングツールを用いることで、本時の課題が視覚的に理解しやすくなり、自分の考えをまとめやすくなっていた。
11.25	3年理科 授吉川教諭 ・物体のいろいろな運動	〇ホワイトボードを使った話し合いの有効性 ・3つの実験で、予想をしてから結果を確認することを繰り返すことで、生徒の考えを深めていくことができた。
11.30	・指導主事訪問B 3年体育 授綿貫教諭 ・創作ダンス「敦盛」	〇ICTを使って創作ダンスを考える有効性 ・ICTを活用することで、即座の確認・自己変容の気づきを蓄積することができ、意欲の高まりや活動の質の高まりが期待できる。資料箱を活用することで、録画してある他学年の動きを参考にすることができ、効率的に話し合い、学び合いを行うことができた。

12.5	2年社会 授治田教諭 ・関東地方	○ペアや少人数での交流の有効性 ・ICTの活用(テキストマイニングなど)をすることで導入部分の時間を短縮でき、中心となる話し合いの場面に十分な時間を使うことができた。
12.	1年体育 授萩原教諭 ・ダンス	○ICTを活用した表現の工夫 ・ロイロノートで他のクラスの撮りためた動画を、生徒が選んで見ることができ、参考にすることができた。
12.12	・今年度の成果と課題の確認	○一人1授業の成果と課題の共有 ・ICTを活用した、考えを深める学び合いの手立てを職員全体で確認することができた。
1.11	・研修のまとめ (研究紀要についての確認)	○今年度の成果と課題 ・今年度の成果と課題、次年度の研修内容に関するアンケート
1.27	3年音楽 授平井教諭 ・能「敦盛」	○謡の特徴と場面や心情を結びつける工夫 ・課題に対しての1つの班の気づきを教師が見取り、全体に広めることで、全体が主体的に学び合う活動にすることができた。
2.13	・紀要「澗標」完成 ・次年度の計画	○次年度の方向性について

※資質向上研修

月日	区分	講師	内容
9.20	・学校侵入者 対応訓練	スクールサポーター 茂木 哲由	○学校侵入者があった場合の安全確保について ・さすまたを使い、多人数で対応する。
11.21	・救急救命法 講習	利根沼田消防本部	○心肺蘇生法などの救急救命法について ・場面に応じた救急救命法について考えることができた。 ・救助を行うときの配慮事項について学ぶことができた。
5.16 10.3 1.25	・服務規律研 修	教頭	○服務規律を守れる行動をするために必要なことを考える ・服務規律チェックリストなどを使い、自分の行動を振り返ることができた。 ・実際の事例などを基に、服務規律を守れなかったときのリスクについて学ぶことができた。
4.18 9.14 1.25	・校内教育支 援委員会	平井教諭 (特別支援教育 コーディネーター)	○特別支援を必要とする生徒の特性や、関わり方について ・自傷行為を行う生徒などがどのような状況で困り感を感じているのか、どんな支援が必要なのかについて具体的に学ぶことができた。

< 職 員 一 覧 >

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	根 岸 浩 文	教 諭	大 関 孝 行
教 頭	根 岸 敦 子	”	萩 原 彩 水
教 諭	藤 井 輝 美	養 護 教 諭	富 澤 彩 香
”	吉 川 洋 之	” (育休補)	小 林 舞 彩
”	星 野 純 一	事 務 主 任	片 野 恵
”	内 田 淳	教 諭 (学校間連携)	瀧 澤 裕 志
”	平 井 美 千 代	非 常 勤 (初任研後補充)	高 橋 千 賀 子
”	林 洋 子	非 常 勤 (初任研指導員)	下 田 洋 一
”	男 沢 紗 代	支 援 員	林 佐 一 郎
”	松 井 恒 俊	”	林 祥 子
”	治 田 千 晶	用 務 員	工 藤 信 悦
”	小 嶋 博 子	心 の 相 談 員	星 野 浩 司
”	綿 貫 諒 太	ス ー ク ル カ ウ ン セ ラ ー	小 林 一 郎
”	小 林 美 緒 奈	教 員 業 務 支 援 員	村 田 誠
”	◎ 田 人 基	部 活 動 指 導 員	中 島 務

沼田西中学校

所在地 〒378-0031 沼田市薄根町3580番地
電話番号 0278-22-3055 FAX 0278-22-9858
校長名 井口 昌之

I 学校の経営

1 学校の教育目標

【学校教育目標】「高い知性、温かい心、たくましい体をもつ生徒の育成」
《目指す生徒像》○向学…自ら学ぶ生徒 ○礼節…思いやりのある生徒 ○進取…挑戦する生徒
《目指す学校像》…生徒が心から「通いたい」と思える開かれた学校
《目指す教師像》…熱意、誠意、愛情のあふれる教師

2 経営方針

- 各主任等のリーダーシップによる機能の充実と明確な役割分担を通じた組織的対応の推進
- 人事評価制度等を活用して教職員の職能成長を図り、一人一人のよさを生かした学校経営の充実
- 学校課題を分析し明確化することにより、解決に向けての実効力のある確実な実践
- 授業改善の日常化と積極的生徒指導の充実による信頼される学校づくりの推進
- 校務の効率化による多忙化の軽減と風通しのよい職場づくりの推進

3 本年度の重点施策

【本年度の重点目標】「主体性と支え愛の創造 ～3つの気(やる気・勇気・根気)を伸ばすワンポイントアップ大作戦～」
・やる気のワンポイントアップ＝授業中の発言を1回増やす、家庭学習でいつもより1問多く解く 等
・勇気のワンポイントアップ＝正しく判断して1人でも多くの人の手助けをする 等
・根気のワンポイントアップ＝諦めずに1つでも多くの努力・練習をして体力を伸ばす 等

(1) 「高い知性」の育成(やる気) 【振り返り学習】【沼田市・先生の日】

～やる気(先の見通しを立て自ら取り組む意欲)を伸ばすために～

- ① 道德教育によって培われた豊かな心に支えられた学力向上の推進
- ② 単元の目標や一単位時間のねらいの明確化による学習の見通しと、ねらいに沿った振り返り学習を取り入れた主体的な学習活動の推進
- ③ 自己の考えを広げ深める対話的学びに繋がる課題や発問の工夫と1人1台端末の活用促進
- ④ 小学校からのつながりを考慮し、各教科担当や家庭と連携し「授業→放課後の補充学習→家庭学習」という学びのサイクルを通して自律した学習者の育成
- ⑤ 家庭学習充実のための施策を更に改善充実させるとともに授業と関連した課題提示の工夫
- ⑥ 個別最適な学びと協働的な学びの実現のため特配を活用した数学や英語等のきめ細かな指導の充実
- ⑦ 特別支援学級や通常学級の中の気になる生徒等を中心とした特別支援教育の推進
- ⑧ 長期休業日等を活用した苦手克服のための補充学習の工夫

(2) 「温かい心」の育成(勇気) 【沼田大好き!ふるさと学習】

～勇気(正しい判断と思いやりの心)を伸ばすために～

- ① 道德や学活で培った豊かな心を生かして、自己決定したり協力し合ったりする場面を意図的に設定する
- ② 「自分事として捉え多面的・多角的に考え議論する」特別の教科道德の授業改善と朝読書の充実や学校図書館の活用による思いやりの心や豊かな感性などの醸成
- ③ ボランティアや職場体験、また地域人材との交流活動等を通じた地域理解の深化と郷土への愛着の増進
- ④ 生徒主体のいじめ防止活動の改善・充実

(3) 「たくましい体」の育成(根気) 【教育部活】【生徒の命を守り、育てる教育】

～根気(目標達成に向け諦めずに取り組む粘り強さ)を伸ばすために～

- ① 「体力向上プラン」を活用した体育を中心とした全校体制で持久力の向上等の学校課題の解決の促進
- ② 「心・技・体」の調和、生徒の主体的な取組や礼儀等の人間の成長を重視した教育部活の実践
- ③ 保健の授業や特別活動を中心とした全教育活動を通して命を大切にす態度と健康で健全な心身の育成
- ④ 生徒会専門委員会や学校保健委員会を活用した生活習慣と健康管理の推進
- ⑤ 感染症予防対策の継続と徹底による健康維持の充実

(4) 安心で安全な環境整備 【セーフティ沼田】【幼小中連携・一貫教育】

- ① 学校安全マニュアルの改訂の継続と幼小中の連携を生かした実際に機能するマニュアルの構築
- ② 学校支援センターの充実を目指した職員体制と地域との連携の推進
- ③ 温かみのある環境を目指し、掲示物や花・緑など、地域や関係機関と連携しうるおいのある環境の推進
- ④ 食物アレルギーや感染症対策等に関する全教職員の共通理解と協働の充実
- ⑤ 小学校と連携して規律正しい生活習慣を確立し生徒の健康安全の増進

(5) 高い専門性を活かし愛情あふれる指導の実践【提案型・課題解決型の職員集団の構築】

- ① 本年度の重点の具現化に向けPDCAサイクルを活用したボトムアップの1割改善の推進
- ② 人事評価制度と同僚性を活かした指導力等の向上
- ③ 意識改革と業務改善による多忙化の解消
- ④ 先の見通しを踏まえ生徒の活動の場に臨み積極的な認知・賞賛

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 自己の考えを深め、表現できる生徒の育成
副主題 ～学び合いの場を工夫した授業づくりを通して～

生徒の実態との関わり

・道徳科の議論の場では、自分の意見を出し合うことはできたが、互いの意見を結び付けて考えたり、相手の意見に付け加えたり反論したりすることができず、議論が表面的な話合いで終わっていた。

指導の在り方との関わり

・「考えを広げ深める道徳科の授業づくり(昨年度の研修)」について実践してきたことを、各教科へ広げ、「学び合い(対話的・協働的な活動)」の中で、自分の考えを深め、表現できる力を育成することを目指す。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

- ・各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識や情報を相互に関連付けて考えることができる生徒
- ・教科の特性に応じた方法で、自分の考えたことを表現できる生徒

(2) 具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践する手立て

- ・自分の考えを持たせるために、生徒の実態を踏まえ、解きたくない、解く必要を感じる課題を設定する。
- ・考えを深めるために「西中授業のスタンダード」に沿って授業を行い、課題解決に効果的なシンキングツールや ICT を積極的に活用していく。
- ・生徒自身が自己の考えを表現できるように、学習過程の繋がりを意識し、前段階の考えを深めることにより意欲を高め、内容の質を上げるとともに、表現方法や学習形態を工夫する。

3 研修計画・経過報告 <裏面>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

- 成果：・共通実践をする手立てを明確にし、教科ごとに「目指す生徒像」を設定したことで、各教科による実践であったが、全校体制での校内研修を進めることができた。
- ・授業研究会、指導案検討会等を通して「考えを深め、表現する」ために効果的な ICT の活用方法や話合いの仕方などについて共有し、学校全体で学び合いの場の工夫を積み上げることができた。
 - ・一人一授業や普段の授業実践の中で、課題の工夫、ICT 活用、学習形態の工夫などを積極的に行ったことで、よい雰囲気学び合っている生徒の姿が見られるようになってきた。
- 課題：・教科の特性に応じた「見方・考え方」を働かせて更に資質・能力を伸ばしていく必要がある。

○課題解決に向けての今後の取り組み

- ・教科の特性に応じた「見方・考え方」を働かせる具体的な生徒像をさらに明確にし、教科の特性をふまえた授業づくりを進めていく。
- ・授業の工夫で「考えを深め、表現する」生徒の姿も見られているので、一時的なものにならないように、これからも実践を積み重ね、学び合いの場における、効果的な ICT 活用の具体的な方法を明らかにしていく。

3 研修計画・経過報告 指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段) ・明らかになったこと (下段)]
4/18 (月)	全体会(第1回) ・今年度の研修の方向性	○研修主題・研修内容・研修組織等について ・研修主題「自己の考えを深め、表現できる生徒の育成」に決定。
5/16 (月)	全体会(第2回) ・研修計画・共通の視点	○目指す生徒像・一人一授業計画について ・各教科における見方・考え方、目指す生徒像を確認。
5/31 (火)	指導主事訪問 A	○共通実践する手立ての明確化について ・授業構想シートと ICT を取り入れることを確認。
6/13 (月)	全体会(第3回) ・A 訪問を受けての研修内容の検討	○授業構想シートと ICT を取り入れた授業づくりについて ・考えを深める場面で、効果的に ICT を活用していく。
7/11 (月)	全体会(第4回) ・B 訪問授業者・授業内容の検討	○B 訪問について ・授業者(諸田教諭)・教科(理科)を決定。
8/24	指 推進委員会による指導案検討会	○指導案の形式・指導と評価の一体化、本時の学習について ・目標、めあて、学習活動、振り返りがぶれないことが大切。
8/29 (月)	全体会(第5回) 指 B 訪問指導案検討(1回目)	○本時の学習(学習活動を中心)について ・学びを深めるために、ICT を活用していく場面を検討。
9/21 (水)	授 一人一授業(道徳・阿部美教諭)	・ICT を効果的に使って授業を展開できる場面を厳選し、その部分を一人一授業で行い合い、研修のリレーを繋いでいくことが大切。
9/26 (月)	全体会(臨時) 指 B 訪問指導案検討(2回目)	○本時の学習(指導上の留意点を中心)について ・実験のさせ方やワークシートの内容などを検討。
10/3 (月)	全体会(臨時) 授 B 訪問模擬授業	○本時の学習(指導案通り進むか)について ・実験操作が複雑だったので、改善案を検討。
10/6 (木)	授 一人一授業(英語・小林教諭)	・自分で話した英文を録音するなど、教科の特性に合わせた効果的な ICT の活用を行うことができた。
10/6 (木)	授 一人一授業(体育・吉野教諭)	・ねらいの達成の手立てとして ICT を効果的に活用することができた。
10/11 (火)	授 一人一授業(数学・石田教諭)	・日常的に ITC の活用を促進している様子が窺える授業だった。 課題解決のための手立てとして ICT の有効活用が図られていた。
10/14 (金)	授 指導主事訪問 B(理科・諸田教諭)	・普段のバズセッションが生かされ、積極的な話し合いが多く見られた。 ・導入での電子黒板の活用が有効だった。
10/17 (月)	全体会(第6回) ・B 訪問を受けての研修内容の検討	・B 訪問での指導助言について(紙面開催)

11/14 (月)	全体会(第7回) 指 地区別人権指導案検討	○本時の学習(学習活動を中心に)について ・「人権教育との関わり」をふまえたねらい・活動が大切である。
11/6 (木)	授 一人一授業 (音楽・塚越教諭)	・パートごとの曲の再生は、ICT ならではの機能を生かし、深い学びへ繋げるための効果的な ICT 活用が行われていた。
12/16 (金)	授 一人一授業 (数学・深津教諭)	・学習課題やワークシート、問題などをクラスルームに公開することで、欠席した生徒のケアや家庭学習に役立つ。
12/19 (月)	授 一人一授業 (国語・宮田教諭)	・日頃から生徒が達成感や自己肯定感がもてるように工夫することが、よい授業に繋がる。
12/19 (月)	全体会(第8回) ・「沼田市の教育」の執筆に関する検討	○「沼田市の教育」の執筆に関する検討について ・今年度の研修の報告書を全体で確認した。
12/20 (火)	授 一人一授業 (国語・兵藤教諭)	・学習活動が「個別→集団→個別」と最後には「個」に戻す意識をもって、学習の展開を考えることが大切である。
1/16 (月)	全体会(第9回) ・今年度の成果と課題の検討	○今年度の研修の成果と課題の検討 ・成果：ICT の効果的な活用など、課題：教科の特性をふまえた授業
2/13(月)	全体会(第10回)	○研修のまとめ (今年度の生徒の変容と来年度への課題について)
3/6(月)	全体会(第11回)	○来年度の研修について

※資質向上研修

月日	区分	講師・担当	内 容
5/23	保健に関する研修	養護教諭 倉澤利佳子	・食物アレルギー緊急対応について
7/22	一人一台端末に関する研修	市教委	・一人一台端末の活用法
9/5	特別な支援に関する研修	S C 小林 一郎	・普通授業における特別支援教育
10/4	安全に関する研修	安全主任/沼田警察署生活安全課	・不審者対応について
随時	メンター研修	阿部美穂、岩崎雅大、他	・教材研究、指導技術等について

< 職 員 一 覧 >

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	井 口 昌 之	教 諭	岩 崎 雅 大
教 頭	吉 田 広 幸	〃	兵 藤 泰 明
教 諭	塚 越 由美子	〃	宮 田 淳 子
〃	阿 部 政	〃	島 田 翔 太
〃	小 林 利 香	養護教諭	倉 澤 利佳子
〃	阿 部 美 穂	主幹事務長	星 野 一 枝
〃	深 津 知 宏	初任研後補充	萩 原 裕 子
〃	高 橋 宏 輔	用 務 員	樋 口 栄 二
〃	春 日 大	S C	小 林 一 郎
〃	吉 野 智 彰	部活動指導員	金 子 功
〃	諸 田 遼 平	教員業務支援員	渡 邊 司
〃	石 田 貫 太		

沼田東中学校

所在地 〒378-0002 沼田市横塚町1118番地
電話番号 0278-22-2472 FAX 22-9859
校長名 佐々木 孝

I 学校の経営 1 学校の教育目標

- 基本目標
 - 『敬愛』… 個性を尊重し合い、共に個性を生かし合って学ぶ
 - 『誠実』… 感謝と真心をもって実践する
- 目指す生徒像
 - 『自発』… 「自ら学び続け、考え、鍛える生徒」
 - 『責任』… 「責任のもてる判断、行動をする生徒」
 - 『協力』… 「知恵と勇気を集め、課題を解決する生徒」
 - 『礼儀』… 「互いに気持ちの良い生活を求め、実践する生徒」
- 目指す学校像
 - 『さわやかで、笑顔あふれる、魅力ある学校（教師）』
 - ・師弟同行、率先垂範を教育活動の基本に据え、実践する学校（教師）
 - ・教育職としての高い意識をもち、使命感・情熱をもって指導する学校（教師）
 - ・職責に真摯に向き合い職務にあたりととも、周りへの協力・支援ができる学校（教師）
 - ・生徒一人一人のよさや取組を認め、生徒に自己肯定感をもたせる学校（教師）

2 経営方針

【本年度の重点目標】新しい生活様式の下での教育活動の充実

- (1) 確かな学力の育成を目指す指導の改善と充実
- (2) 豊かな心と自主性・主体性を育てる指導の充実
- (3) 心身の健康の増進と体力の向上
- (4) 生徒指導・特別支援教育の充実
- (5) 家庭や地域、小学校との連携、キャリア教育・進路指導の充実
- (6) 持続可能な運営体制の構築及び多忙化解消に向けた勤務環境の改善

3 本年度の重点施策

〈学校経営方針の(1)について〉【サマースクール沼田】【家族で本を読みましよう】

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進及びカリキュラムマネジメントの充実
- ・育成すべき資質・能力を明確にした内容や時間のまとまりを見通した単元や題材の構想（必要感のある課題の提示と身につけた知識・技能の活用）
- ・単元で身につける資質・能力に基づいた、単位時間における「めあて」「見通し」「学び合い」「振り返り」「評価項目」を意識した各教科の「見方・考え方」を働かせる学習活動の充実
- ・丁寧な教材研究や互いの授業を見合う授業研究等による教師力の向上
- ・個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて1人1台端末を効果的に活用した学習指導の工夫
- ・読書活動の充実とそれを支える図書室の環境整備

〈学校経営方針の(2)について〉【命を守り育てる教育】【教育部活】

- ・道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実及び全教育活動を通じた豊かな心と実践力の育成
- ・「考え（考えをもつ）・議論（考えを広げる・深める）する」道徳科に向けた指導の充実
- ・生徒が「自己有用感」を感じられる学年・学級づくり
- ・挨拶・返事・礼儀・接遇等の基本的な生活習慣の充実
- ・生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重し、力強く生き抜こうとする心を育てる指導の充実（「SOSの出し方に関する教育」プログラムの活用）
- ・自主的・主体的に取り組む生徒を育成するための教師の支援による教育部活動の充実

〈学校経営方針の(3)について〉【教育部活】【セイフティ沼田】

- ・学校保健委員会を中心とした心の健康、食育の推進及び感染症対策の徹底
- ・体力向上プランを踏まえ、教科体育を核とした学校体育の充実
- ・生徒の危険予測・危険回避能力を高めるための実効的な安全教育の推進

〈学校経営方針の(4)について〉【沼田市SNSルール】【命を守り育てる教育】

- ・「わかる授業」の展開が生徒指導の基本（自己肯定感を育てる、間違いから学べる雰囲気醸成）
- ・取組への「よさを認め、励ます」指導による「自己有用感」の高揚
- ・生徒指導委員会を核にした迅速な情報共有による組織的・計画的な生徒指導態勢の推進
- ・「個別の教育支援計画・指導計画」を基にした「合理的配慮」を意識した教科指導の推進
- ・いじめ事案に対する法に基づく適切な対応及び不登校支援も含めた未然防止、組織的・計画的な対応の充実

〈学校経営方針の(5)について〉【幼小中連携】【沼田大好き！ふるさと学習】

- ・家庭と連携した挨拶、早寝早起き、家庭学習等の生活・学習習慣の確立
- ・地域の理解や地域素材を活用した「東中大好き、利南大好き、沼田大好き」ふるさと学習の推進
- ・学校と家庭、地域が連携・協働した教育活動における地域の人的・物的資源の積極的活用
- ・小中連携による各教科等の学びの連続性を意識した教育課程編成の推進
- ・キャリアパスポートを活用した自分の生き方を見つめ、夢や希望を育むキャリア教育の推進

〈学校経営方針の(6)について〉

- ・信頼される学校づくりのための教職員の資質向上と服務規律の確保
- ・報告・連絡・相談のしやすい風通しのよい職場作りの推進
- ・働き方改革に向けた教職員の意識の高揚と業務の効率化・最適化に向けた具体的な取組の推進
- ・年間を見通した計画的な年次休暇の取得推進

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 知識・技能を身に付け活用できる生徒の育成
副主題 ～深い学びを実現するための支援の工夫を通して～

生徒の実態との関わり

- ・知識・技能の定着に個人差があることもあり、知識・技能を活用する力が十分に身に付いていない生徒が多い。
- ・生徒の思考力や表現力などが不十分で、学びが深まらないことがあった。

指導の在り方との関わり

- ・既習事項と結び付けるような、単元及び題材の課題の検討が不十分だった。
- ・生徒が深い学びを達成した姿を明確にし、それにつなげるための具体的な支援の工夫を検討する必要がある。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

- ・各教科で身に付けた知識・技能を、問題解決の場面等で相互に関連付けながら、教科の見方・考え方を働かせて活用することができる。
- ・見通しをもって主体的に学習に取り組み、他者の考えを取り入れながら自分の考えを深め、他教科や社会生活で生かそうとすることができる。

(2) 具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践する手立て

- ・教科ごとの目指す生徒像で、見方・考え方を働かせて知識・技能を活用するようすを深い学びを達成した姿として定め、それを基に単元や題材で生徒が深い学びを達成した姿を明確に示す。
- ・生徒が深い学びを達成できるよう、ICT 機器の活用や教材等の工夫、交流のさせ方の工夫など、具体的な支援を十分に検討しながら繰り返し実践し、よりよい支援に改善していく。

3 研修計画・経過報告 <次ページ>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・ICT 機器を活用した交流の工夫以外にも、課題設定の工夫や教材の工夫、活動の必要感をもたせるための工夫など、多様な支援の方法を提案することができた。
- ・深い学びを達成した生徒の姿を示したことで、具体的な支援の方法を考えることができ、日ごろの生活に結びつけて考えたり、今までの考えを変容させたりするような、深い学びを達成した生徒の姿が見られた。

○課題

- ・深い学びを達成した生徒の姿を事前に示していたが、実際の授業では、示されている姿がうまく見取れなかったり、予想していた姿と離れていたりすることがあった。
- ・工夫した支援が必ずしも効果的だったとは言えなかった。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・深い学びについての共通理解を図ることで教職員間の認識のズレを少なくし、深い学びを達成した生徒の姿について同じ視点から議論できるようにしていく必要がある。
- ・普段の授業から具体的な支援の工夫を繰り返し実践し、より効果的な支援になるように改善していく必要がある。

3 研修計画・経過報告

指 指導案検討 授 研究授業・授業研究会

月日	研修計画（内容）	経過報告（○研修の視点・明らかになったこと）
4.18	・校内研修主題の確認	○主題、副主題の検討 ・副主題は「深い学びを実現するための支援の工夫を通して」に決定。
5.16	・各教科の目指す生徒像、指導案の形式について	・目指す生徒像の検討（教科部会での確認） ・指導案の形式
5.30	・年間の授業予定、組織編成 ・授業者の確認 ・要請訪問Aに向けて	・研修計画等の確認 ・1人1授業実施日の検討、要請訪問Bの授業者決定 ・1人1授業の授業実践について
6.9	・指導主事要請訪問A	・授業検討会を通して今後の研修の方向性を検討
6.27	授 社会科 津久井教諭	○クラゲチャートを活用して思考を可視化する工夫 ・自分の考えだけでなく、他者の考えを取り入れながら思考が変容する様子を可視化できた。
6.27	・指導主事要請訪問Aを受けての反省と今後の課題	・各教科における授業実践とまとめ ・指導事項の確認と今後の取組の見直し
6.28	授 英語科 林教諭	○ICT機器を用いたコミュニケーション活動の工夫 ・単語の発音などをタブレットで確認しながら活動できたため、積極的にコミュニケーションできた。
6.30	授 数学科 田村晃教諭	○深い学びにつながるような課題設定の工夫 ・日常にひそむ数学的事象から課題設定を行ったため、興味・関心を高められ、学びを深められた。
7.14	授 道徳科 田村健教諭	○意見を可視化して比較させる工夫 ・様々な意見を比較して考えさせることで、価値の捉え方が変容する様子が見られた。
8.29	・2学期の予定 ・要請訪問Bについて	・2学期の研修予定について ・要請訪問Bまでの計画の確認
8.31	授 社会科 高橋教諭	○友達以外に、動画の人物と意見を比較させる工夫 ・動画を活用して、生徒だけでは思いつかないような意見と自分の意見を比較させることができた。
9.12	指要請訪問B指導案検討①	・授業の視点と校内研修との関わりについて ・単元、授業構想について ・技術科における深い学びについて
10.4	授 音楽科 中村教諭	○音源とロイロノートを活用した話し合い活動の工夫 ・音源とロイロノートを往復させながら、予想とそう思った理由まで考えさせることができた。
10.21	授 数学科 町田教諭	○誤答が出やすい難易度に設定した課題の工夫 ・一度間違えてから修正させることで、間違えた理由についても考察でき、学びを深められた。
10.24	指要請訪問B指導案検討②	・授業の視点、指導方針、指導計画等について ・授業の展開について ・予想される生徒の反応と具体的な支援について ・深い学びを達成した姿の見取り方について
11.2	授 理科 星野教諭	○ICT機器や説明用パネルによる視覚的支援の工夫 ・想像することが難しい部分を操作的活動を交えながら考えさせたことで、学びを深められた。
11.4	授 英語科 高坂教諭	○ロールプレイを活用したコミュニケーション活動の工夫 ・インフォメーション・ギャップを活用することで、興味・関心を高められ、学びを深められた。
11.8	授 理科 篠澤教諭	○社会問題を取り上げた課題設定の工夫 ・持続可能な社会をつくるための意思決定を擬似的

11.14	・要請訪問Bに向けて	に体験させることで、学びを深められた。 ・校内研修経過報告書の確認 ・日程の確認 ・授業検討会の進め方の確認
11.22	・指導主事要請訪問B 授 技術科 内田教諭	○自己で課題を見だし、プログラムを評価、改善及び修正させるための課題設定の工夫 ・安全性に問題のあるプログラムでシミュレーションさせたことで、必要感をもって活動できた。 ・評価、改善及び修正を繰り返し行うことができた。
12.1	授 国語科 登坂教諭	○論語を元に自分自身の生活を振り返らせる工夫 ・振り返る観点をあらかじめ示したことで、見通しをもって学習に取り組むことができた。
12.19	・アンケート、研修紀要について	・アンケート配布 ・研修紀要（翠松）について
1.23	・アンケートのまとめ	・成果と課題、生徒の変容の確認 ・沼田市の教育について
2.13	・来年度の研修について	・来年度の研修の方向付け ・年間指導計画・評価計画の修正

【その他の研修】

月日	区 分	講 師	内 容
5.19	メンター研修①	メンター研修担当	・メンター研修の進め方について ・初任者の悩みについて
5.30	救急体制、アレルギー対応、熱中症対応	養護教諭	・心肺蘇生法について ・熱中症対応について ・アレルギー対応について
6.14	メンター研修②	メンター研修担当	・成績の付け方について ・所見の書き方について
7.4	普通教室における発達障害支援	SC	・発達障害の種類と特徴について ・普通教室での対応について
8.29	メンター研修③	メンター研修担当	・クラス行事の盛り上げ方について
10.31	メンター研修④	メンター研修担当	・三者相談の進め方について ・進路指導について
11.14	嘔吐物処理法	養護教諭	・嘔吐物処理について
12.12	メンター研修⑤	メンター研修担当	・主体的に取り組む態度の見取り方について

< 職 員 一 覧 >

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	佐々木 孝	教 諭	田村 健介
教 頭	今井 幸生	養護教諭	坂田 佳織
教 諭	林 秀紀	〃	内田 蛍
〃	町田 実	主任事務長代理	保坂 歩
〃	篠澤 敦子	非常勤講師	片野 由紀子
〃	津久井 仁美	〃	金子 友美
〃	田村 晃宏	オンライン学習サポート	太田 弘行
〃	星野 杏奈	〃	佐藤 亜里紗
〃	登坂 俊介	スクールカウンセラー	小林 一郎
〃	高橋 浩美	用 務 員	穴戸 裕康
〃	高坂 拓歩	拠点校指導員	下田 洋一
〃	内田 共平	初任研後補充	堀江 則子
〃	中村 亮太		

池田中学校

所在地 〒378-0073 沼田市発知新田町533番地
電話番号 0278-23-9330 FAX 23-9273
校長名 阿部 忠博

I 学校の経営

1 学校教育目標

【心の豊かさを求める生徒】 【技の確かさを求める生徒】 【体の健やかさを求める生徒】

2 学校経営方針

「一人一人がきらりと輝る池田中」

(1) 目指す学校像

- ・生徒が充実感をもって学校生活を送る学校
- ・保護者が信頼して任せられる学校
- ・地域が誇りにできる学校

(2) 目指す生徒像

- ・互いのよさを認め合い、礼儀正しく思いやりのある生徒
- ・自ら課題を見付け、積極的に学習する生徒
- ・すすんで体を鍛え、心身共に健康な生徒

(3) 目指す教職員像

- ・生徒一人一人のよさを認め、夢や希望をもたせる教職員
- ・常に専門性の向上を目指し、生徒の個性や能力を伸ばす教職員
- ・保護者、地域、同僚から信頼される教職員

3 本年度の重点施策

(1) 学校経営の充実

- ・協働体制を高め、温かく活力に満ちた学校・学級経営の充実を図る。
- ・連絡・報告・相談を密にし、教育談義のできる明るい風通しのよい環境作りに努める。
- ・教師の専門性を生かし、「全職員で全生徒をみる」きめ細かな指導を通して生徒の多面的理解を図る。

(2) 豊かな人間性の育成 【沼田大好き！ふるさと学習】

- ・道徳科を中心として、全教育活動を通して自他のよさを認め合うことのできる生徒の育成を図り、温かな学校・学級作りを推進する。
- ・信頼関係を基盤にした生徒指導を推進し、生徒の自己肯定感や自己有用感を育む。
- ・すすんであいさつ、返事ができ、周囲に笑顔と感謝を表せる生徒を育成する。
- ・生徒主体の活動や行事、あいさつ運動等を通して、思いやりの心や温かい人間関係を育む。
- ・「池田小中学校 沼田大好き！ふるさと学習」を推進し、郷土のよさを理解し、郷土に愛着のもてる人間性豊かな生徒を育成する。

(3) 確かな学力の向上 【振り返り学習】【沼田市・先生の日】

- ・ねらいを明確にし、それに沿った学習活動、振り返りを行うことにより、わかる授業、楽しい授業の実践に努める。
- ・管理職の授業参観を日常的に行い、それをフィードバックすることにより、教師の指導力の向上を図る。
- ・一人1授業の研究授業と授業研究会を通して、若手もベテランも自己の授業改善に取り組む。
- ・家庭学習の内容や方法を工夫し、自主学習ノートを毎日提出させることで、家庭学習の習慣化を図る。
- ・各種テストにおいて、標準点前年度プラス2を目指す。

(4) 体力の向上・健康増進 【教育部活】

- ・体力向上プランに基づき、視点を明確にした保健体育の授業や体育的行事、部活動指導を継続的に実践することで、持久力や筋力、運動技能を高め、体力の向上を図る。
- ・部活動においては、教育部活の理念に基づいた活動を行い、副顧問の配置や外部指導者の招へいなどにより、安全確保や技術面の向上を図る。
- ・保健だよりや掲示物等による啓発活動を通して、疾病治療率の向上やよりよい生活習慣の定着を図る。また、学校保健委員会の取組により、健康の増進や体力向上を図る。

(5) 家庭・地域・小中連携 【小中連携・一貫教育の推進】【家族で本を読みましよう】

- ・小中連携推進会議を年3回開催し、様々なギャップを取り除き、教育効果を上げるための連携を推進していく。
- ・小中合同でのあいさつ運動や英語科における指導、小中相互の授業参観等を通して、小中での指導・学びを連続させるとともに、児童・生徒の多面的理解に努める。
- ・駐在所や池田地区防犯パトロール隊等と協力し、地域全体で生徒の安心安全を守る体制をつくる。

(6) 安全教育の推進 【セイフティ沼田】【沼田SNSルール】

- ・避難訓練、交通安全教室等を通して、生徒自身の危機管理意識や危険回避能力を高める。
- ・学校保健委員会を中心に、SNSについての啓発や池中SNSルールの見直し等を行い、家庭と連携し、情報モラル教育の充実を図る。

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～
 主題 主体的に学ぶ生徒の育成
 副主題 ～ねらいに迫るための学習活動の精選を通して～

生徒の実態との関わり

- ・与えられた課題に、真面目に取り組むことのできる生徒は多いが、自分の考えを積極的に表現したり、苦手な教科や学習課題に粘り強く取り組んだりできる生徒は少ない。
- ・学習課題を意識して授業に取り組んだり、振り返る活動は習慣化されてきたりしているが、学習活動に対して、満足感や成就感を感じながら取り組んでいる生徒が少ない。
- ・学習内容の定着度に生徒間で差が見られる。

指導の在り方との関わり

- ・学習課題の内容、提示の仕方を工夫し、振り返る活動を充実させていく必要がある。
- ・生徒一人一人に学習への成就感や満足感を与えることができるように、ねらいに迫るための学習活動を精選し、内容やその与え方、一連の繋がり等を検討、吟味していく必要がある。
- ・基本的な学習内容を確実に定着させていく必要がある。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

見通しをもって粘り強く学習に取り組み、自己の学びを調整したり、学習活動を振り返ったりして、次につなげることができる生徒

(2) 具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践する手立て

- ・授業者は、ねらいに迫るための学習活動を精選し、内容、その与え方、導入から学習活動、終末までの繋がりを意識して、一単位時間の授業を構想する。
- ・授業者は、形式を統一した指導案を作成し、「学習活動の内容」「方法（手立て）」「生徒の姿」の3点を中心に、授業研究会を行う。

3 研修計画・経過報告 <裏面>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・授業者が単元全体や一単位時間の授業を構想する際に、生徒の実態を基に、単元全体や一単位時間のねらいに迫るためにどのような学習活動を行い、どのような手立てを講じていくのかを考えながら授業構想を行うことができた。
- ・一人一授業が計画的に行われていることや視点を絞った授業研究会により、主題に迫る研修を効率的に行うことができた。

○課題



- ・学習活動の内容が多く、生徒が十分思考できていなかったり、活動時間が十分確保できていなかったりする場面が見られた。
- ・主題や副主題の定義が広く、教科ごとにねらいに迫るための手立てや視点が様々だった。
- ・授業のねらいと学習活動、振り返りの一貫性が見られない授業があった。



○課題解決に向けての今後の取組

- ・授業者は生徒の実態、活動時間等を考慮し、中心となる学習活動を精選し、活動の効率化を図れるように、教材や学習形態等を工夫していく必要がある。
- ・学習活動や学習場面を絞る等、さらに研修の視点を具体的にしていく必要がある。精選を行う場面の絞り込みなどを行いながら、設定する活動の具体的な意図や変容の具体的な見取り方等を明確にして授業に臨むように共通実践を行っていく。
- ・授業者は一単位時間のねらいを基に、「振り返りに表れてほしい姿」をより具現化し、学習活動の内容や時間配分等を考えて授業設計を行う。

3 研修計画

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点(上段)・明らかになったこと(下段)]
4. 11	全体会① ・今年度の研修主題の提案 ・研修の方向性 ・授業計画の立案	○研修主題の提案 ○研修計画の立案 ・主題は昨年度と同じ。副主題は「ねらいに迫るための学習活動の精選を通して」とし、ねらいを達成し、生徒一人一人に学習への成就感や満足感を与えられるような学習活動を精選していく。
4. 25	全体会② ・目指す生徒像 ・共通実践の手立て	○目指す生徒像 ○共通実践する手立てについて ・各教科で目指す生徒像を確認し、統一した指導案の作成、視点を絞った授業研究会等、共通実践する手立てについて共通理解を図った。
5. 30	全体会③ ・一人一授業の指導案形式の検討	○一人一授業の指導案形式の検討 ・授業者の意図が伝わるように、指導案の中に「ねらいに迫る学習活動とその意図」を明記して作成する。
5. 31 6. 6	一人一授業①授 林教諭 全体会④授 林教諭	○「学習活動の内容」「方法」「生徒の姿」について ・導入での演示実験が、生徒が学習課題を把握しやすい流れになっていたが、原子や分子のモデルもワークシートに書かせると、生徒の思考に沿った展開になったのではないかと。 ・ICT端末を使用したモデル操作や班での話し合いは、生徒の考えを深めることにつながっていたが、意図的な班編制を行うと、より授業のねらいに迫れたのではないかと。 ・化学変化によりできた物質を全体で確認させると、生徒も思考しやすく、化学変化の説明がスムーズに行えていたのではないかと。 
6. 14	指導主事要請訪問 A	○今後の研修の方向性について指導主事より助言 ・昨年度までの成果と課題を継続して研修を進めていく。 ・各教科で設定した「目指す生徒の姿」を基に、生徒の姿をより具体化していく。
6. 27	全体会⑤	○指導主事訪問 A を受けての研修の方向性の見直し
7. 12	一人一授業②授 金子教諭	○「学習活動の内容」「方法」「生徒の姿」について ・学ぶ必要感を高めるために、課題であった用語調べを授業に生かしたり、知識を活用したりして考えられるように、秦の急激な改革について例示できるとよかった。 ・地図帳を使った操作活動や読み取り活動を取り入れた授業展開は有効だったが、各活動の関連性をしっかりと明示できるとよかった。 ・生徒は意欲的に取り組んでいたが、活動ごとに表れてほしい生徒の姿を具体化していくと、研修としてさらによいのではないかと。
9. 22 9. 26	一人一授業③授 山岸教諭 全体会⑥授 山岸教諭	○「学習活動の内容」「方法」「生徒の姿」について ・生徒の興味関心を高めるような課題設定になっていたが、学習活動の容量が生徒にとって多かったのではないかと。 ・シンキングツールを用いたり、段階を踏んだ指導を行ったりしたことで、生徒は見通しをもって活動に取り組んでいたが、自力解決の場面を設定できるとよかった。 ・生徒は課題解決に向けて、粘り強く取り組んでいた。
10. 3	全体会⑦授 鈴木教諭	○指導主事訪問 B の授業内容について ・授業のねらい、価値理解に迫れるような中心発問を設定したり、TTで授業を行う必要感のある展開を考えたりする必要がある。
10. 13	一人一授業④授 星野教諭	○「学習活動の内容」「方法」「生徒の姿」について ・動画を見て自分の課題を見付ける活動は、自分の課題の気付きにつながってよかった。 ・タブレット端末を用いる際は、考える時間と運動時間の配分が大切である。また、生徒同士で交流する場面があると、さらによかった。 ・授業を通して、生徒が自分の成長を感じられる1時間になっていた。 
10. 24	全体会⑧授 鈴木教諭	○指導主事訪問 B の授業内容について ・導入場面で生徒の問題意識を高めるために、きまりを守れな

		<p>った事例だけでなく、理由まで記述させるとよいのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の「振り返りに表れてほしい姿」をもとに、授業のねらいにつながるように教材観等を吟味し、学習活動を精選していくとよい。
10.25 10.31	一人一授業⑤授 岡田教諭 全体会⑨授 岡田教諭	<p>○「学習活動の内容」「方法」「生徒の姿」について</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元を通した課題設定とルーブリックの提示によって、生徒が見通しをもって学習に取り組むことができていたが、ペア活動については、難易度が高かったため、低位の子でもやりやすいように工夫する必要がある。 生徒が自分の考えを整理するのに、思考ツールが有効に活用されていた。 生徒が意欲的に学習に取り組み、協働的に学び合う姿が見られた。 
11.25	指導主事訪問B授 鈴木教諭	<p>○「学習活動の内容」「方法」「生徒の姿」について</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前に資料を読ませ、自分の立場や考えをもって授業に臨ませたことは、その後の交流活動に主体的に参加させる手立てとして有効であったが、授業冒頭のアンケートを終末でも活用し、生徒の意識の変容を見取れる場面があると、さらにねらいに迫れたのではないかと。 活動形態（ペア、グループ、全体）が効果的に使い分けられていてよかったが、主発問を吟味したり、生徒の思考を揺さぶるような補助発問があったりすると、さらによかったのではないかと。 生徒は課題に対して、一生懸命自分なりに考え、ワークシートに記入したり、発言したりしていた。 
12.15 12.19	一人一授業⑥授 西本教諭 全体会⑩授 西本教諭	<p>○「学習活動の内容」「方法」「生徒の姿」について</p> <ul style="list-style-type: none"> 反復表現の効果を意識しながら読み取るために、同様の表現に注目させて考えさせたことはよかったが、生徒が思考しやすい言葉を使ったり段階的に考えさせたりするとさらによかった。 シラバスやワークシート等を使用したことで、学習活動が明確になっており、生徒に見通しをもたせるために有効だったが、対比を促したり、根拠を明確にするような読み取りを入れたりすると、さらによかった。 教科書をじっくり読んで考えている生徒が多かったが、個人の考えを書けない生徒も見受けられた。
1.30	全体会⑪ ・今年度の研修のまとめ	
2.27	全体会⑫ ・来年度の研修の方向性	

※資質向上研修

月 日	区 分	講 師	内 容
8.29	メンター研修	生徒指導主事	<ul style="list-style-type: none"> 生徒についての対話・共有（生徒の課題と今後に向けての指導） 校内教室環境めぐり 意見交換（生徒指導・学習指導・校務分掌等）
11.21 2.20		メンターチームリーダー 教頭	
7.4		情報主任等	
随時	生徒指導	生徒指導担当	・一人一台端末を効果的に用いるための研修 ・生徒指導について

< 職 員 一 覧 >

職 名	氏 名	職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	阿 部 忠 博	教 諭	金 子 真 人	非常勤講師	瀧 間 京 子
教 頭	小 幡 儀 見	〃	山 岸 信 之	非常勤講師	萩 原 裕 子
教 諭	西 本 一 崇	〃	星 野 颯	非常勤講師	阿 部 一 美
〃	林 拓 磨	養護教諭	宮 下 純 香	SC	阿 左 見 康 成
〃	鈴 木 香 穂	事務主事	松 本 あ ゆ み	用務員	石 田 久 米 幸
〃	岡 田 莉 奈				

薄根中学校

所在地 〒378-0064 沼田市善桂寺町40番地
電話番号 0278-22-3180 FAX 22-9860
校長名 松井 秀幸

I 学校の経営

1 学校の教育目標

(1) 基本目標

豊かな人間性、高い知性、たくましい身体を育て、自ら考え、
正しく判断し実践できる生徒の育成を図る。

(2) 具体目標

- 「友愛」 自らに厳しく、思いやりのある、明るい礼儀正しい生徒
- 「英知」 自ら学び続け、知性を磨く創造性豊かな生徒
- 「健康」 自ら鍛え、心身共に健康でたくましい生徒

2 経営方針

○ 目指す学校像

「生徒が充実感をもてる学校」「保護者から信頼される学校」
「地域が誇りにできる学校」「教師のよさを発揮できる学校」

○ 目指す生徒像(う・す・ねの心を身に付ける)

「う」美しい心……………自他を大切にし、あいさつができる生徒
「す」進んで取り組む心……………自分で決めたことを実行していく生徒
「ね」ねばり強い心……………目標に向かって努力を続ける生徒

○ 目指す教職員像…熱意、愛情、誠意のあふれる教職員

各主任のリーダーシップによる組織的な役割分担を通して資質向上を目指す教職員
学校課題を分析し明確化することにより、解決に向けて努力する教職員
日常的に授業改善に努力すると共に、人事評価制度等を職能成長に生かす教職員
校務の効率化による多忙感の軽減と風通しの良い職場を作る教職員
教職員一人一人のよさを生かし、学校経営に自ら参画する教職員

3 本年度の重点施策

(1)「豊かな人間性」を育てる指導の充実

- ①「特別の教科 道徳」における「考え・議論する」等の指導方法、指導体制を改善し、全教育活動を通して道徳的实践力を育成する。
- ②体験的な学習活動やボランティア活動等を通して、違いを認め自他を受容し、相手の立場に立って考え、互いの尊厳を認め合う心を育成する。
- ③部活動の意義とねらいを理解させ、目標に向かってねばり強く取り組む実体験を重視する。

(2)「高い知性」を育てる指導の充実

- ①ねらいを吟味し、見通しと振り返りを明確にした一単位時間における授業改善に努める。
- ②主体的・対話的で深い学びにつながるように、教科横断的に学び考える活動を通して、学ぶ楽しさや喜びを実感させる。
- ③一人1台端末を効果的に活用した学習活動や学習過程を工夫し、学習意欲の向上とともに授業のねらいを達成する。

(3)「たくましい身体」を育てる指導の充実

- ①健康リズム、質の高い食事や睡眠を理解させ、免疫力を高めながら、基本的な生活習慣の確立を推進する。
- ②感染症に対する正しい知識と感染防止対策を習慣化し、新型コロナウイルス感染症等の流行の防止を自ら実践できる力を育成する。
- ③学校保健委員会の機能を活用して、心の健康、食育指導の推進を図る。

(4)生徒指導・特別支援教育の充実

- ①生徒指導委員会を核として全教職員の共通理解のもとに、組織力で積極的な生徒指導を推進する。
- ②多面的・多角的な視点から生徒理解に努め、成長の過程や変化を見取り「よさを認め、励ます」指導により生徒の可能性を伸長する。

(5)家庭、地域や幼小中の連携、進路指導やキャリア教育の充実

- ①家庭との連携により、基本的な生活習慣や学習習慣を確立する。
- ②地域との連携により、「薄中大好き、薄根大好き、沼田大好き」の特色ある教育活動を推進する。
- ③「なめらかな接続」と「適度な段差」等により、幼小中が連携した教育活動を推進する。

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～
主体的に学びに向かう生徒の育成
～教科の特質を生かした見通しと振り返りを通して～

生徒の実態との関わり

- ・学習課題に対し、見通しをもったり、課題意識をもったりしながら学習できる生徒は少ない。また、主体的に学びに向かう生徒の育成は学校の課題である。
- ・本校では中堅職員に加え、若手職員が多く活躍している。その中、学習指導や生徒指導、部活動についての悩みを抱えたり、意見交換を求めたりする職員もいると考えている。この中、情報や意見交換、指導などについての話題を豊かに交換する場の設定が大切だと考えている。

指導の在り方との関わり

- ・「教科の特質を生かした見通し」を行うことにより、学習意欲を高める学習課題の工夫や、明確な学習のゴールの設定を目指す。
- ・「振り返り学習」を行うことにより、生徒の学びに対する達成や、課題への自覚を促し、主体的な学習への意欲を高める。
- ・本校では教師全体の資質向上を目指し、メンター研修を行なう。異なる年齢層の教師同士の意見交換や、他教科間の意見交流を行い、学び合う関係作りを目指す。
- ・生徒用タブレットの授業での効果的・発展的利用のため、基本的に授業で活用しながら校内研修でその利用法を紹介し合い、研修を深める。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

本校の「主体的に学びに向かう生徒」生徒像とは

- ・一単元、あるいは一授業の「めあて」から学習のゴールを知り、見通しを立てながら学習する生徒
- ・一単元、あるいは一授業の「振り返り」を通して自らの課題を知り、学びの自覚を持って学習する生徒

(2) 達成するための共通実践する手立て

- ・具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践を以下の1, 2に示す。

1 「教科の特質を生かした見通し」について

- ・生徒が単元や題材、一単位時間で解決する学習の方向をイメージできるように課題の設定を工夫する。
- ・教科の特質に応じて、以下の観点から「見通し」を選び、設定する。
 - ①学んだ知識を生かした活用・探究を見通した学習課題の設定
 - ②知識・技能と社会や生活の結びつきを見通した学習課題の設定

2 教科の特質を生かした「振り返り」について

- ・単元や題材、一単位時間での終末場面で振り返りをおこない、「何を学んだか」「どのように学んだか」などを表出させ、学びを自覚させる。
- ・「振り返り学習」において、教科の特質に応じて見取りたい生徒の姿を明確にする。
- ・「振り返り」活動を以下の場面で精選しておこなう。
 - ①授業の終末場面での振り返り学習
 - ②単元を通した振り返り学習

3 研修計画・経過報告 <裏面>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・教科の特質を生かした見通しと振り返り学習の実践に取り組むことができた。各教科の特質に合わせた課題の提示や振り返り学習を通して生徒の学びに向かう意識の向上を高めることができた。
- ・生徒用タブレットでのシンキングツールの積極的な利用が行われ、文字による言語活動を行うことで対話的な学習を進めることができた。

○課題

- ・振り返り学習を生徒用タブレットで行うとき、教諭、生徒によって生徒用タブレットを使用するリテラシーに差がある。

○課題解決に向けての今後の取組み

- ・教諭間で生徒用タブレットの使い方について情報交換を行いながら、生徒、教師ともリテラシー向上につとめる。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会 メ は、メンター研修・部会 教 は、教科部会

月日	研修計画「内容」	経過報告「○研修の視点（上段）・明らかになったこと（下段）」
4.8	推1 今年度の研修主題・内容等について	○今年度の研修の方向性を示すと共に、各教科で推進できる内容を吟味する。年間を通した校内研修を計画する。B訪問代表授業者の検討をする。
4.18	全1 研修主題の設定、授業計画立案、研修計画書	・教師のキャリアを視点としてメンター部会を構成した。また、教科部会、学年部会の確認も行った。
5.09	全2 生徒用タブレット研修1 教科部会研修	○生徒用のタブレットについての研修を深める。 ○教科部会にて「教科の特質」について情報交換をおこなった。 ・生徒用タブレットの使用例を紹介しながら情報交換をおこなった。
5.18	授 指導主事訪問A	○要請訪問 A ・各教科、先生方が要請訪問 A により、指導助言を受けた。
5.26	授 一人一授業 林教諭 3-2 英語	○一人一授業の実践をおこなった。 ・校内研修のテーマである「教科の特質」「見通し」「振り返り」の観点を重視した授業をおこなった。 ・校内研修のテーマである「振り返りの学習」の時間を本時の中でおよそ10分間使うことができ、時間的確保をすることができた。 ・校内研修の共通の研究教材である生徒用タブレットの実践研究をおこなった。この際、音量(端末カメラで撮影した動画の再生時)が小さいということがわかった。これについてはイヤホン使用など機器の見直しが必要と考えられた。
5.30	全3 生徒用タブレット研修2	○生徒用タブレット端末利用について金子教諭による実践報告が行われた。 ・ICT 機器の活用をすることで、多くの情報を短い時間で共有することができた。 ・アプリケーションの操作が難しかったり使い勝手がわかっていなかったりすると実践で利用するには難しい面もあった。
6.06	全4 生徒用タブレット研修3	○生徒用タブレット端末利用について、大河原、新井教諭による実践報告が行われた。
7.04	全5 生徒用タブレット研修4 教科の特質・振り返り	○生徒用タブレット端末利用について小野教諭による実践報告が行われた。 ・ICT 機器の活用をすることで、多くの情報を短い時間で共有することができた。
9.05	授 一人一授業 金子教諭 2-1 数学	○一人一授業の実践をおこなった。 ○「復習」、「本日の学び」「まとめ」「振り返り」の流れに沿って授業を行うことができた。 ・比例と1次関数の比較をもっと明確にして授業を進めると、1次関数と比例の結びつきが分かりやすくなるということが授業研究会から分かった。 ・考えさせる時間、生徒が意見を交流し発表する時間、本時の学びを教師が教える時間をはっきりと分けて、もっとメリハリのある授業づくりをすることが今後の課題であると感じた。 ・説明を行う時に使う言葉を統一できなかったもので、生徒には伝わりづらい説明を行ってしまった。
9.13	全6 生徒用タブレット研修5 一人一授業報告 B訪問指導案検討①	○生徒用タブレット端末利用について真庭教諭による実践報告が行われた。 ・使用するアプリケーションの中で、シンキングツールを有効に使うことが生徒の思考を深める上で有効であると考えられる。 ○指導案の検討が行われた。 ・授業構想などについて、授業者から説明が行われた。
9.29	授 一人一授業 新井教諭 2-2 国語	○一人一授業の実践をおこなった。 ○「めあて」「話し合いのコツ」「話し合い」「ふりかえり」の流れに沿って授業を行うことができた。 ・発達段階ごとの話し合いのコツを確認し提示することで話し合いが活発になった。 ・ロイロノートの共有ノートを使うことにより、班員の考えを同時に確認でき、班のまとめに有効であった。 ・単元を通しての振り返りカードは学習内容全体がわかる。 ・話し合いという点では、話し合いのコツを使ってもう少し深まるとよかった。 ・見通しを持たせるとき、時間のめやすを示した方がよかった。
9.30	授 一人一授業 正田教諭 1-2 美術	○一人一授業の実践をおこなった。 ・「教科の特質」「見通し」「振り返り」を重視して授業を行うことができた。 ・題材の計画表で見通しをもたせ、課題を明確にして主体的に学習できるようにできた。 ・用語の説明の後、すぐに確認したり練習をしたりすることで定着させたり理解を深めたりできた。 ・教書とワークシートを使い効率的に振り返りができるように工夫できた。 ・小グループでの交流を取り入れてもよかった。 ・図版はもう少し大きいものを用意できるとよい。 ・美術室でもICTが使え環境を整えたい。
10.03	全7・指 生徒用タブレット研修5 一人一授業 B訪問指導案検討②	○生徒用タブレット端末利用について竹内教諭による実践報告が行われた。 ○一人一授業の授業報告から、深い学びに結びつく言語活動について話し合われた。 ・コロナ禍における口頭での言語活動に変わる文字による表現活動をロイロノート等の活用によっておこなう工夫が多くみられた。 ○一人一授業 ICT 活用の有効性について

		・シンキングツールを利用することで斬新な意見交換を行うことができることがわかった。
10.06	授 一人一授業 小野教諭 3-1 社会	○一人一授業の実践をおこなった。 ・自己解決と集団解決の場面を設けたことで、生徒の思考が深められた。 ・ワークシートとタブレットの良さを活かしたことで、めあてに対して、有効に学習できた。 ・説明の時間を短く、話し合いの時間を長くとれるような時間配分さらに工夫するとよかった。また、時間配分の予定を生徒に伝えておくとも生徒も時間を見て作業できるのでよりよい。
10.12	授 一人一授業 大澤教諭 1-1 数学	○一人一授業の実践をおこなった。 ・東京オリンピックのマーク中にある日本の伝統模様を扱うことで、生徒の関心が高まった。 ・効果的なタブレットの活用ができていた。(生徒のワークシートをタブレットでモニターに映したり、録画と録音したものを共有画面に保存させたりすることで全体で共有することができた。) ・具体物による操作活動をすることで、全ての生徒が参加できていた。 ・美術科の模様の学習との教科横断的な学習ができるとよりよい。
10.17	全8・指 B 訪問指導案検討③	○指導案の検討会を行った。 ・指導案の文言、誤字脱字などの確認を行った。
10.20	授 一人一授業 竹内教諭 1-2 音楽	○一人一授業の実践を行った。 ・タブレットを用いて自分たちの歌を録音させることで、客観的に振り返ったり、休憩になったりと時間を有効に使えていた。 ・学習の見通しが明確で、主体的に取り組んでいた。 ・歌い方について、もっと生徒達に考えさせる時間があると良い。 ・強弱記号などを楽譜で確認する際、タブレットとモニターが活用できるとよい。
10.25	授 B 訪問授業	○B 訪問代表授業が下飯教諭によって行われた。 ・エネルギーミックスについて ICT を利用し視覚的に示すことで説明する時間の短縮や充実を図ることができた。 ・思考を可視化するツールを多用することで、生徒の思考を可視化することができた。 ・計画的に外部講師を利用しながら授業を行うことで、生徒が学習内容について深く学ぶことができた。
10.31	全9 生徒用タブレット研修 6 ・B 訪問報告	○生徒用タブレット端末利用について、大澤教諭による実践報告が行われた。 ・数学における図形の提示など、ICT を用いて具体物を提示することは生徒の理解を助け、同時に興味や関心を高めることができた。
11.7	授 一人一授業 中島教諭 2-2 家庭	○一人一授業の実践をおこなった。 ・学習課題の設定の仕方はよかったが、生徒から出すようにするとさらによい。 ・実物をみせての導入やヒントカードや付箋などを用いた活動は、実生活を振りかえさせたり、既習事項をもとにして話し合いをしたりするのに、有効だった。 ・班での意見をまとめるのは、紙でもできるが、効果的に ICT を活用できるようにしたい。 ・1時間の見通しをしっかりとらせることで、まとめの時間がもてる。
12.12	全10 生徒用タブレット研修 7	○生徒用タブレット端末利用について、武藤教諭、阿部教諭におけるによる実践報告が行われた。 ・ICT 機器の活用をすることで、多くの情報を短い時間で共有することができた。
1.23	全11 生徒用タブレット研修 8	○生徒用タブレット端末利用について、教頭先生、中島教諭におけるによる実践報告が行われた。 ・ICT の利用について、教頭先生の発表から教育機器の進歩や変化を学ぶことができた。旧来の教材から学べることはそれぞれによさがあることである。
2.07	推2 次年度研修主題検討	○アンケート集計から次年度の研修主題、副主題について検討した。
2.13	全12 生徒用タブレット研修 9	○生徒用タブレット端末利用について、校長先生、小野教諭におけるによる実践報告が行われた。

〈 職 員 一 覧 〉

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校長	松井 秀幸	教諭	竹内 香那子
教頭	佐藤 啓文	教諭	小野 貴大
教諭	中島 美保	教諭	吉野 弘仁
教諭	阿部 哲也	教諭	新井 久美
教諭	大河 幹夫	教諭	正井 由佳
教諭	大原 秀多	教諭	金子 陽一
教諭	林原 新誠	養護教諭	小野 茂子
教諭	大澤 光道	主幹事務長代理	吉野 理恵
教諭	武藤 英樹	学校教育支援員	小吉 さと子
教諭	下真 由美	スクールカウンセラー	小茂 恵理子
教諭	庭倉 美奈	スクールソーシャルワーカー	坂本 恵理子
教諭	小倉 春奈	用務員	伊藤 宏

白 沢 中 学 校

所在地 〒378-0121 沼田市白沢町高平75-1
電話番号 0278-53-2009 FAX 53-3984
校長名 林 武史

I 学校の経営

1 学校の教育目標

(1) **学校教育目標** 【教育目標】自ら正しく判断する力を養い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を期する。

(2) 目指す具体像

〔目指す生徒像〕 ○自主：正しく行動できる生徒 ○勤勉：ねばり強く学ぶ生徒

○奉仕：人のためにつくす生徒 ◎**友愛：温かな心をもった生徒** ○健康：心身ともに鍛える生徒

〔目指す学校像〕 ○**みんなが幸せになる「みんなの学校」**

・学び合う楽しい学校【生徒】・働きがいのある学校【教職員】・安心して通わせたい学校【保護者】

〔目指す教職員像〕

○学び続ける教職員【専門性】○生徒や保護者の声を聴き、心に寄り添う教職員【人間性】

○笑顔と明るい声が溢れる教職員【社会性】

2 経営方針

(1) 生徒が心身ともに健康で安心・安全な学校生活を送れるよう、新型コロナウイルス感染症対策の徹底、自然災害や事故等から主体的に命を守る取組を推進し、学校の安全管理・危機管理に努める。

(2) G I G Aスクール構想における I C Tの効果的な活用により、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業改善に取り組む。

(3) 生徒や家庭・地域の思いや願いを聴き、生徒の可能性を引き出しながら、家庭と学校をつなぐ学びと希望進路の実現に向け、生徒の学習習慣の確立と学力保障に努める。

3 本年度の重点施策

(1) 学習指導の充実

・自ら進んで粘り強く学ぶ「主体的な学び」と、生徒同士がお互いの考えを交流して広げ深める「対話的な学び」を実現し、これまでに培った知識や技能を積極的に活用しながら、問題を解決したり、思いや考えを表出・理解したりする「深い学び」を実現するために、I C Tの効果的な活用と併せて授業改善を図る。

(2) 豊かな人間性・社会性の育成

【沼田大好き！ふるさと学習の推進】

・「考え議論する」道徳の時間を中核に、実感や感動を伴い、生き方につながる学びができるよう体験学習と連携させた道徳教育を全教育活動の中で推進する。

(3) 健やかな身体の育成

【教育部活】

・生徒の体力・運動能力等の実態を踏まえ、特性に触れ、楽しさを体験できる教科体育を充実させるとともにスポーツに対する関心や意欲を高める。

(4) 安全教育の推進 【セイフティ沼田】 【沼田市 SNS ルール】 【児童生徒の命を守り、育てる教育】

・実効的な危機管理体制の充実を図り、引き渡し訓練や学校侵入者対応避難訓練、非行防止教室等を通して、生徒自身の危険予測や危険回避能力を高める。

・「市 SNS ルール」及び「白沢中 SNS ルール」の活用、情報モラル講習会の実施などとおして、情報モラル教育の充実と家庭への啓発活動を一層推進する。

(5) 学社連携・融合の推進

【幼小中連携】

・学びの連続性を踏まえた、小中連携・一貫教育を推進する。

・地域への教育活動の発信と学校公開等を通して、信頼ある学校づくりを進める。

1 研修主題及び設定の理由



～研修主題～

主題 学びに向かう姿勢を大切に、考えを深め合う生徒の育成
副主題 ～ICT機器の活用を通じた深い学びを目指して～

生徒の実態との関わり

- ・学ぶことに対して見通しをもち、粘り強く取り組む姿が見られるようになってきているが、自立的に学びを進められるだけの学習方を確立させるには至っていない。
- ・考えを交流する場面において、考えの共有はできるが、お互いに考えを広げ合ったり深め合ったりするまでには至っていない。
- ・授業や日常生活で身に付けた知識・技能をもっているが、それらを活用して新たな問題を考えたり、自己の学びを客観的に振り返ったりすることが不十分である。



指導の在り方との関わり

- ・生徒が自らの取組を正確に認識しきれていないため、学習の中で自分なりに目標を定めたり、予想したりして問題解決に至るまでの学習過程を充実させていく必要がある。
- ・意見交流の際に一方的な発表に留まってしまうことが多く、考えを深め合うことがあまりなかった。
- ・ICT機器を効果的に活用し、意見の集約や比較などを瞬時にやり、見方・考え方を働かせながら考えを深め合う場の設定が必要である。
- ・振り返る活動において、学びに対する達成感や課題の自覚を促していく必要がある。



2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

自己を客観的に振り返り、課題に対して粘り強く取り組むとともに、他者と協働しながらよりよい考えや新たな考えを生み出すことができる。

(2) 具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践する手立て

- ・各教科における見方・考え方を働かせながら自分の考えに対する根拠を見いだしていく。
- ・交流場面において、ICT機器を活用することによって、他者と協働しながらよりよい考えや新たな考えを生み出し、自分の考えを整理させる。
- ・振り返りの場面において、「何を、どのように学び、何ができるようになったのか」など振り返る視点を示すことによって、自身の学びの過程や変容を自覚させる。



3 研修計画・経過報告 <裏面>



4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・1人1台端末の活用により、意見の共有を瞬時に行うことができ、話し合いの中で比較・検討するなど、考えを深めることが達成できた。
- ・振り返りを記入し、ICT機器を使って集約することで本時の学びを全体で共有することができた。
- ・ICTを活用し思考ツールを用いて考えさせる活動は、お互いの考えを比較・検討し、それを基に意見交流したり、教材や題材に親しみをもったりするうえで有効であった。

○課題

- ・粘り強く取り組む姿勢については、課題を個別に選択する際に、できないことや難しいことよりも、分かりやすいもの、簡単なものに流されがちな傾向が見られた。
- ・各教科の見方・考え方を働かせることを意識させ、より考えを深めていく必要がある。
- ・「深い学びができた姿」をどのように見取るのか、検討していく必要がある。


○課題解決に向けての今後の取組

- ・授業者が各教科の見方・考え方を強く意識し、1人1台端末を効果的に活用しながら、問題解決を促したり、話し合い活動を設定したりするなど、学び合いのある授業づくりを積み重ね、考えを深められるようにする。
- ・振り返りの場面で視点を示すことによって、生徒自身が成長や変容を実感できるようにする。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画[内容]	経過報告[○研修の視点(上段)・明らかになったこと(下段)]
4.11	【第1回校内研修推進委員会】	○校内研修の概要と見通しについて検討する。 ・研修テーマについて共通理解を図り、今年度の研修の方向性を確認し、今年度の校内研修の見通しをもつことができた。
4.18	【第1回校内研修(全体会)】 ・研修の計画、概要の検討	
4.25	【第2回校内研修(全体会)】 ・目指す生徒像について ・主題設定の理由、ねらい、内容、方法、計画の確認 ・指導主事訪問Aについて	○生徒の実態や課題を確認し、「目指す生徒像」について検討する。 ・教科ごとに「目指す生徒像」を設定し、共通実践の手立ての共通理解を図った。「主体的・対話的で深い学び」の一体的な実現に向けた授業改善が必要である。その際に1人1台端末の効果的な活用も図っていく。
5.24	・指導主事訪問A	○校内研修の方向性を確認するとともに、個別指導の機会をいかに、資質向上に向けて、個々の目標や課題を明確にする。 ・授業実践を行い、指導主事からの指導助言を踏まえ、個々の目標を明確化した。
6.6	【第3回校内研修(全体会)】 ・指導主事訪問Aを受けての反省 ・1人1授業の実践について	○1人1授業の実践方法と授業研究の進め方を確認する。 ・計画的かつ組織的に1人1授業を実践し、授業研究会を通じて、課題を明らかにすることで授業改善に努めることが大切である。
6.27	【第4回校内研修(全体会)】 2年A組 【体育】 授 植木 毅教諭(グループA)	○タブレットを活用し、自分の動きを確認しながら練習したことは、生徒が正しい動きをマスターし、自己の課題を克服するために有効であったか。 ・タブレットで動きを撮影したことで、手本の動画と比較しながらフォームを確認できた。また、繰り返し撮影した動画を基に意見交換しながら、フォームの修正をすることができた。
8.24	【第2回校内研修推進委員会】 指 指導主事訪問Bに関わる指導案検討	○B訪問に向けての指導案検討と方向性を確認する。 ・授業者の思いやねらいを踏まえ、古典学習における学びを深めるための手立てを検討した。
9.12	【第5回校内研修(全体会)】 2年A組 【道徳】 授 齋藤 広大教諭(グループA)	○ロイロノートの共有ノート機能を用いて、主人公の考えをシンキングツール上にまとめながら話し合わせたことは、課題に対する答えを導き出すのに有効であったか。 ・共有ノート機能を用いて1つのノートで作業させることによって、活動の様子を見ながら進められた。
	指 指導主事訪問Bに関わる指導案検討①	○B訪問に向けての指導案検討と方向性を確認する。 ・授業者の思いを踏まえ、古典学習における学びを深めるために、効果的な学習活動について共通理解を図った。
9.26	【第6回校内研修(全体会)】 指 指導主事訪問Bに関わる指導案検討②	○模擬授業を行い、古典学習において学びを深めるための意見交流の手立てを検討する。 ・模擬授業を通して、ICT機器の活用場面や方法、板書計画、授業の流れの改善点を明らかにした。
10.17	【第7回校内研修(全体会)】 2年A組 【数学】 授 萩原 正人教諭(グループB) 指 教育水準授業研究会に関わる指導案検討	○端末を活用し、様々な補助線の引き方を考え、交流をさせたことは、多様な考えを引き出し、互いに深め合うのに有効であったか。 ・グループの考えを聞き合うことで、自分の考えに近いものを見つけたり、新たな考えに気付いたりすることができた。 ○教育水準授業研究会に向けて共通理解を図る。 ・授業者の思いを踏まえ、本時の展開の中で学びを深めるためにより効果的な学習活動の在り方について共通理解を図った。

10.19	指導主事訪問B 1年A組 【国語】 授 栞原 志乃教諭 (グループA、B) 	○「竹取物語」に登場する5人の貴公子による求婚の場面において、ロイロノートの思考ツールを活用し結婚の優先度について他者と意見を比較し合ったことは、自分の考えを深め、古典の世界に親しませるうえで有効であったか。 ・思考ツールを使い、それぞれが前時で調べてきた情報を発表し、それを比較しながら自分の意見を伝え合うといったICTの効果的な活用ができた。 ・ランキングをつけるだけで終わらず、作者の工夫を考えさせることができた。古典の世界だけでなく、今後の学習にも活かされる内容になった。
11.8	【第8回校内研修(全体会)】 ・指導主事訪問Bを受けての反省や改善点の再確認 ・教育水準についての確認	○研修のねらいを達成するための授業改善について再確認した。 ○教育水準について共通理解を図るとともに、当日の役割分担や流れの確認を行った。
11.17	教育水準授業研究会 3年A組 【美術】 授 南雲 優人教諭(グループA)	○教育水準のねらい及び校内研修主題に沿った授業と授業研究会を実施する。 ・ロイロノートの共有ノート機能を用いてグループで話することによって、考えが共有しやすくなり、お互いの考えを見ながら話し合うことができた。
	2年A組 【社会】 授 櫻井 慎吾教諭(グループB)	・思考ツールを活用し、自分やグループの意見を集約・整理することができた。グループの内の話合いで順位付けの理由などを活発に話し合うことができていた。
11.28	【第9回校内研修(全体会)】 2年A組 【英語】 授 石井 華恵教諭(グループB)	○スティービーワンダーについて書かれた英文をリテリングする場面で、ロイロノートを利用して伝える内容を考えさせたことは、友だちに本文の概要を伝えるための手立てとして有効であったか。 ・ICTを使って、振り返りの共有を行い、強調したいところにラインを引いておくことで、本時のねらいへ繋げることができた。
12.12	【第10回校内研修(全体会)】 3年A組 【音楽】 授 新井 智子教諭(グループA)	○ロイロノートの機能で生徒の意見を交流させたことは、謡や能についての考えを深めることに有効であったか。 ・ICT端末を用いて、クラス全員の考えを共有し、他の人の考えを参考にしながら、自分の考えをまとめることができた。
1.16	【第11回校内研修(全体会)】 ・本年度の成果と課題 ・来年度のテーマの方向性の検討 ・アレルギー対応について	○授業実践を振り返り、成果と課題をまとめる。 ・自分自身の取組や研修の成果と課題を振り返り、今年度の研修の成果と課題を確認し、今後の研修の在り方について明確にすることができた。 ・エピペンの使用法やアレルギー対応についての共通理解を図った。
2.6	【第12回校内研修(全体会)】 ・来年度のテーマの方向性の決定	○今年度の成果と課題を踏まえ、次年度の研修の研修主題、内容について検討する。

〈職員一覧〉

職名	氏名	職名	氏名
校長	林 武史	教諭	林 徹志
教頭	小曾 根一広	教諭	植 木 毅
教諭	萩原 正人	養護教諭	小 湊 里江
教諭	新井 智子	事務主任	保 坂 洋介
教諭	石井 華恵	用務員	長 谷 川 晃
教諭	南雲 優人	支援員	中 澤 かな子
教諭	齋藤 広大	オンライン学習サポート	片 野 由紀子
教諭	櫻井 慎吾	心の教室相談員	小 室 昌 顕
教諭	栞原 志乃	部活動指導員	梅 澤 周 平

利根中学校

所在地 〒378-0303 沼田市利根町追貝334番地
電話番号 0278-56-2044 FAX 0278-56-4209
校長名 田村 学

I 学校の経営

1 学校の教育目標

(1) 学校教育目標

[基本目標] 高い知性と豊かな心を持ち、心身ともに健康で、強く逞しく生きる生徒を育成する。

- [具体目標] ○ 向学（知）：進んで学ぶ生徒
○ 克己（体）：心身を鍛える生徒
○ 優雅（徳）：思いやりのある言動をとる生徒

(2) 経営目標

- [目指す学校像] ○ 利根町の歴史と風土に根ざした落ち着きと潤いのある学校
○ 生徒や教職員一人一人にとって満足感と有用感のある学校
○ 家庭との信頼関係を築き、地域とともにある学校

- [目指す教師像] ○ 経営目標を共有し、互いに支えながら高め合える教師
○ 生徒への深い愛情を持ち、よさや可能性を伸ばせる教師
○ 教職員として自覚と誇りをもち、保護者や地域から愛される教師

2 経営方針

- (1) 教職員による主体的・組織的に参画する態勢の充実 **【創造・協働・意思疎通】**
- (2) 「進んで学ぶ生徒」を育むための授業を核とした学習指導の工夫・改善
- (3) 「心身を鍛える生徒」を育むための、保健体育・部活動の充実と保健指導の推進
- (4) 「思いやりのある言動をとる生徒」を育むための人権教育と道徳教育の推進
- (5) 安全で安心な学びの場づくりと防災・危機対応能力を育むための安全教育の推進
- (6) 地域に根ざした特色ある教育活動（小中連携・中高一貫教育、キャリア教育、へき地教育等）の推進

3 本年度の重点施策

- (1) 教職員による主体的・組織的に参画する態勢の充実に向けて
 - ・職種に応じた専門職としての自覚と誇りをもちた職務の遂行
 - ・キャリア段階に応じた資質・能力の向上と、学校経営への参画意識の高揚
 - ・学校評価を踏まえた分掌業務の実施と改善点を生かした計画的・協働的な取組の充実
- (2) 「進んで学ぶ生徒」の育成に向けて
 - ・学力向上委員会を中核とした学力向上を図るための対策や取組の充実
 - ・「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力と人間性」の3つの資質・能力を育てる、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善の推進
 - ・振り返りによる学習内容の確実な定着 **【振り返り学習】**
 - ・自ら学ぶ意欲を高め、学び方を身につけさせるための家庭学習の指導の工夫
- (3) 「心身を鍛える生徒」の育成に向けて
 - ・運動の楽しさを味わわせるとともにがんばりぬく強い心を育て、体力向上を図る保健体育の授業の工夫・改善
 - ・生徒の主体性を重視し、取り組む姿勢や成長を評価する部活動の推進 **【教育部活】**
 - ・生活ノートを通じた生活習慣指導、全校一斉給食を活用した食育指導、学校保健委員会等による健康な生活への意識の高揚と実践力の育成
- (4) 「思いやりのある言動をとる生徒」の育成に向けて
 - ・道徳教育推進教師を中心とした「特別な教科道徳」の授業の充実
 - ・多面的な生徒理解と積極的な生徒指導による「自己肯定感」や「自己有用感」の育成
 - ・生徒の主体性を生かす生徒会活動と生徒会と連動した学級活動による自治的精神の育成
 - ・読書活動（朝読書・家庭での読書）の推進による豊かな感受性と想像力の育成

【家庭での読書活動推進】
- (5) 安全で安心な学習環境の整備と危機管理意識の育成に向けて
 - ・施設、設備の定期点検への対応と、様々な状況を想定した危機管理体制の充実 **【セイフティ沼田】**
 - ・消防署と連携した避難訓練や心肺蘇生法講習、アレルギー事故の未然防止、危機管理マニュアルの実効性を高める訓練や研修等による危険予測・回避能力の育成
- (6) 地域に根ざした特色ある教育活動の推進に向けて
 - ・学校評価等による保護者や地域の意識の把握、各種たより等による積極的な情報発信
 - ・地域の人材・特色を生かした総合的な学習の時間や特別活動の実施 **【沼田大好き！ふるさと学習】**
 - ・連携型中高一貫教育の推進と小学校との連携 **【小中連携・一貫教育】**

基本姿勢 3C 創造 (Creation) 協働 (Collaboration) 意思疎通 (Communication)

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

自ら学び、共に学び合う生徒の育成

～自らの学び方を調整していく生徒を目指して～

生徒の実態との関わり

- ・多くの生徒が積極的に話し合い活動に参加できるが、表面的な内容を話し合うだけの活動で終始している。自らの考え方をさらに深めたり、よりよい方法を考えたりすることを目標にしたい。
- ・学習の終末では振り返りができているが、次のステップとして、その振り返りを自身の次の学習に生かせるようにしていきたい。

指導の在り方との関わり

- ・自らの学び方を意見交流や学び合いなどの①他者との関わりと、自己の振り返りや単元の目標を見据えた②自分自身との関わりを通して、自分なりに調整していけるよう授業改善をしていく。
- ・ICTの有効性を見極め、積極的に活用するとともに、従前の話し合い活動も取り入れるなど、学習内容に応じて最適な手立てを見極めていく。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

- ・自らの見方・考え方を整理し、伝え合う活動や自己の取り組みを振り返る活動を通して、自らの学習の仕方を調整していこうとする生徒

(2) 具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践する手立て

- ・自分の考えを持たせるため、各授業の考えさせたいポイントで生徒に「なぜだろう。」と意外性を持たせたり、「調べてみたい。」と積極性を持たせたりするような発問を意図的に取り入れる。
- ・自分の考えをより深めるため、友達の考えと比較して共通点を探させたり、違う点を説明させたりするなど、考えを議論する場を意図的に設ける。

3 研修計画 〈裏面〉

4 研修の成果と課題

○成果

- ・各教科での単元のめあての提示や振り返りの継続によって、生徒が単元のゴールを意識して学習に取り組むことができたり、授業前後の考え方の変化や練習方法の修正による技術の向上を実感させることができたりするなど、自己調整能力を高めることができた。
- ・授業だけではなく集会や学校行事など様々な場面で、自分で言葉を考えて発言したり、相手の話に関心を持って聞いたりする力をつけることができた。

○課題と課題解決に向けての今後の取組

- ・交流の場面は増えているが、深い学びにつながる交流や交流した内容を自己の学習に活用するという面ではさらなる手立てが必要である。
- ・より質の高い交流を求めていくために、交流前に話し合う観点を提示したり、本当に交流が生徒の深い学びにつながるものとなるか、交流そのものの妥当性を教師が見極めたりすることが求められる。

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 ・明らかになったこと]
4.18	校内研修主題の提案・検討 研修主題の決定、組織編成 研修計画と内容の確認	○本年度の校内研修の方向性についての確認 ・前年度の成果と課題を共有し、本年度の研修テーマの共通理解を図った。
5月～ 2月	授 授業参観ウィーク (この月以降毎月第3週)	○授業参観カードの交換による教師の学び合い ・授業改善のための「授業参観ウィーク」の活用を確認した。
5.16	一人一授業の計画 生徒の実態分析	・一人一授業は若手教員4名で実施していく。 ・NRTの結果を受けての生徒の分析を進める。
5.26	指導主事訪問 A 授業実践、授業研究会	・生徒に必要感をもたせるための意図的なめあての設定、議論の場の設定をしていく。 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、各教科で単元の構想を工夫してデザインしていく。 ・共通実践を全職員で徹底して取り組んでいく。
6.13	各教科の実態分析の共有 学力向上に向けての取組の 検討	○教科ごとに各学年について分析 ・実態や課題を明らかにし、「学びに向かう力」が高まった生徒の姿をイメージしながら、授業改善の手法について考えた。 ・学力向上に向けて、タイピング練習や効果的な学習ノートの提示などの実践を行っていく。
9.12	授 一人一授業、授業実践① 授業研究会 (1年理科 畔上教諭)	○仮説を元に条件制御を意識した実験方法を考える学習 ・自分の考えを持ち、互いの考えを交流した後、もう一度個人で考えることで学びを調整する姿を見取ることができるのではないか。
9.26	指 指導主事訪問 B 指導案検討会 I 服務規律研修 I	○学習を通して、生徒がどう変わったか具体的な姿が見られるような手立てについて ・ペアでのやりとりの後、次のペアに行く前にスライドを整理する時間を作れば、学び方の調整につながるのではないか。
10.24	指 指導主事訪問 B 指導案検討会 II	○「自身の考え方を深める意見交流」「他者との学び合い」のある授業を目指した指導案となっているかの検討 ・活動→修正→活動…のサイクルの視点を指導者がもち、粘り強く学習に取り組ませることを意識する。
10.25	授 一人一授業、授業実践② 授業研究会 (2年社会 齊藤教諭)	○ルーブリックと思考ツールを活用した自分の考えの再構築 ・個人→グループでの話し合い後、全体でも共有を行ったり、議論が深まるよう意図的に意見を対立させたりすると思考の変化を実感しやすくなるのではないか。
11.2	授 指導主事訪問 B 授業実践③ (2年英語 横坂教諭)	○ペアでの意見交流が、自分の発表をよりよく修正するために有効な手立てであったか ・単元構想を意識し、単元目標を達成するために本当に必要なもの

	授業研究会	かという視点を意識しながら活動を精選していく。
11.14	授 一人一授業、授業実践④ 授業研究会 (1年道徳 井上教諭) 服務規律研修Ⅱ	○実生活で起こりえそうな場면을提示して考える活動は、道徳的価値に迫るために有効であったか ・「今までは～、これからは～」という書き出しで振り返ることで、感想に終始しない、視点を絞った振り返りができるのではないか。
12.19	授 一人一授業、授業実践⑤ 授業研究会 (3年道徳 千木良教諭)	○いじめのない世界の実現のために大切なことを、いじめの加害者・被害者の心の変化を対比しながら捉えることの有効性 ・道徳では考えを書かせることよりも、生徒との言葉のキャッチボールを通して本音を引き出すことも大切である。
1.16	成果と課題の共有 研修のまとめ 服務規律研修Ⅲ	○今年度の研修の振り返り ・各教科で有効であった生徒の学び方を調整する姿や効果的なICT 端末の活用などについて共有した。 ・今年度の研修を振り返るアンケートを実施し、成果と課題を明確にした。
2.20	次年度研修の方向性の検討	○校内研修の成果と課題の共有と次年度の研修の方向性 ・各教科の成果と課題を共有し、次年度以降の実践に生かす。

※資質向上研修

月日	区分	講師	内容
4.18	ICT端末の活用を図るための研修	情報主任	○タブレット端末の使用方法についての研修 ・Google Chrome やロイロノートで対話的な学びを行うためのツールの使い方を共有した。
7.11	服務規律の確保	沼田市教育委員会 管理主事 角田厚様	○服務規律確保に向けての職員研修 ・SNS 等への書き込みによる信用失墜行為について、具体的事例をもとに防止策をグループで話し合った。
8.29	地域学校協働活動の充実	利根教育事務所 次長 林崇夫様	○地域学校協働活動に関する職員研修 ・地域学校協働活動の充実に向けて、学校で具体的にどのような取組ができるか話し合った。

< 職員一覧 >

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	田村 学	教諭	横坂 真優	栄養士	北脇 千寛
教頭	小林 直也	〃	古田 島 茂	非常勤講師	亀山 秀治
教諭	齊藤 喬	〃	清水 昭	〃	萩原 裕子
〃	千木 良厚	〃	小林 千晴	〃	高橋 実穂
〃	井上 幸大	養護教諭	武井 美枝	スクールカウンセラー	宮澤 美恵子
〃	畔上 峻也	事務主事	東海林 未来	主任用務員	中澤 玲子

多 那 中 学 校

所在地 〒378-0317 沼田市利根町多那732
電話番号 0278-53-2698 FAX 53-3199
校長名 田部井 由美子

I 学校の経営

1 学校の教育目標

(1) 基本目標 ◎多那を愛し、未来をきりひらく子

(2) 具体目標【目指す生徒像】

○学び続ける生徒（知） ○思いやりのある生徒（徳） ○たくましい生徒（体）

2 経営方針

(1) 経営目標

小・中全教職員の経営参画（3ワーク）による組織の活性化を図る

(2) 目指す学校像

ともに学び、考え、助け合い、高め合う多那校（チームたな）

(3) 目指す教師像

小中の枠を超え、感謝、使命感と奉仕の心もち、互いに支え、高め認め合える人間性豊かな教師

3 本年度の重点施策

(1) 確かな学力の育成 【 】は沼田市独自施策との関係

①小中の学びの連続性を意識した学習指導の実施

②小中相互乗り入れ型教科指導の充実（特に技能教科）

③めあての提示と振り返り、基礎・基本の確実な定着【振り返り学習のすすめ】

④校内研修の充実（小中完全融合型の組織活動）により、指導力を向上させ児童生徒の学力向上を図る【沼田市・先生の日】

(2) 豊かな心の育成

①考え議論する道徳での命の大切さを繰り返し指導【児童生徒の命を守り、育てる教育】

②信頼関係を基盤にした生徒指導の推進と沼田市SNSルールの改善・充実

【みんなで守り、みんなを守る「沼田市SNSルール」】

③「家庭で本を読みましよう」やSCの活用を図る【家族で本を読みましよう】

(3) 健康の保持増進と安全の確保

①児童生徒の健康と安全を第一に考えた、全教育課程における感染症予防対策の徹底

②各種緊急時避難訓練等の安全指導の推進【セイフティ沼田】

(4) 家庭・地域との連携・協働

①こどもは宝、地域で育てる地域の学校、学校支援センターの機能の充実と教育課程の改善、OJT、家庭・地域との連携で多那の子の健全育成等【沼田(多那)大好き！ふるさと学習】

(5) 組織マネジメントの充実と職能の向上

①スクラップ&ビルドによる分掌の工夫・改善（特に小中一貫の視点で分掌業務を小中統合）

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～ 研修主題 ～
「自ら学び、考えを広げ深め合える児童生徒の育成」
—協働的な学びをより充実させるための工夫を通して—

児童生徒の実態との関わり

- ・ICTを活用し、意見交流することによって、多様な観点から考えを広げられるようになってきた。
- ・考えを発表することに満足してしまう様子が見られ、考えを広げたり深めたりする視点からの質問や発言をできる児童生徒は少ない。新たな考えを創造したり、他者と協働しながら課題の解決や目標の達成に向かったりすることには課題が残る。

指導の在り方との関わり

- ・考えを深める場の設定（活動場面・ICTツール・時間・提示する資料）を工夫して授業実践を行う。
- ・多様な考えをもつ他者と交流し、自己の考えを深めたり、新たな考えを創造したりできる手立て（発問、問い返し、板書、ワークシート）を工夫して授業実践を行う。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す児童生徒像

- 【低学年】友達や教師と関わり合い、探求的な学習をしたり、考えを交流させたりしながら、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。
- 【高学年】他者と関わり合い、探求的な学習をしたり、根拠を示して考えを交流させたりしながら、考えを広げ深めたり、よりよい考えをつくったりすることができる。
- 【中学生】積極的に多様な他者と関わり合い、探求的な学習をしたり、考えを交流させたりして、幅広く比較・検討することで、考えを広げ深めたり、創造したりすることができる。

(2) 具体化した目指す児童生徒像を達成するための共通実践する手立て

- ・授業で多様な他者と意見を効果的に交流させる場を設定する。
- ・協働的な学びをさらに充実させるために、提示資料やICTツールや活動時間など、考える場の設定を工夫したり、考えを深めたりするための教師の発問や問い返し、板書やワークシートなどの教師の手立ての工夫をしたりした授業実践を行う。

3 研修計画・経過報告 次ページ

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・各学年の発達段階や教科の特質に応じて、自分と異なる他者の考えやよさを理解しようとする姿が見られ、ねらいにそった思考の広がりや深まりが見られるようになった。

○課題


- ・合意形成や新たな考えを創造する経験を重ねて、協働的な学びの面白さやよさに気付かせたい。
- ・協働的な学びの場面で、考えの根拠を説明したり、質問に答えたりして、活発に考えを交流させるためには、語彙力や表現力など話し合うための知識や技能の向上がさらに必要である。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・協働的な学びの面白さやよさに気付くために、他校との交流や外部発信、異学年交流などの伝える活動や様々な他者との交流の場の設定を工夫して、児童生徒のアウトプットを重視した活動を充実させていく。
- ・協働的な学びやアウトプットの場面の設定を重視した単元構想を練る。
- ・児童生徒が見通しをもって解決に向かえるよう、時間配分や学習形態、個別最適な学びを工夫して協働的な学びの充実につなげていく。
- ・思考を広げたり、深めたりできるように、児童生徒同士で積極的に質問をしたり、感想を伝え合ったりさせる。

3 研修計画・経過報告 (全: 全体会 班: 班別協議 校: 校種別部会)

月日	研修の内容	経過報告 (○研修の視点・明らかになったこと)
4/11	全①・研修内容について ・指導上の工夫について	○本年度の研修主題、副主題について
4/18	全②・校内研究授業について 校①・目指す児童生徒像の検討 班①・研修グループ計画作り	○授業実践の計画 ○目指す児童生徒像の検討 ○1人1授業の計画立て
5/23	全③・指導案形式、授業研究会 班②・宮内教諭、大河原教諭の指導案検討	○1人1授業の指導案形式について ・授業の視点、学習課程の協働的な学びについて ○授業研究会の持ち方について ・ジャムボードを使った研究会の進め方
5/20	指導主事訪問A	
5/23	授業実践 中1 社会科 宮内教諭 「世界各地の衣食住の変化」	○共通点と違いを調べ意見交流する工夫 ・共通点と違いという視点はわかりやすく、話し合いも活発に行えた。個別に調べる時間にどうしても個人差が出てしまうので、調べる数を見直す必要がある。
5/30	小5 算数 大河原教諭 「小数のかけ算」	○意見交流によって、帰納的に考えを深める工夫 ・友達の発表を見ることで自己の考えに確信を得ることができた。ペア学習にしたり、数の設定を制限したりする工夫が必要である。
6/13	全④・成果と課題の記録について ・B訪問の授業について	○研究会後の報告、成果と課題の記録について ○B訪問の授業について
6/28	授業実践 小3 国語 渡貫教諭 「まいごのかぎ」	○心情曲線を元に話し合うことで読み取りを深める工夫 ・心情曲線の変化とその理由を話し合うことで、主人公の気持ちをより深く想像することができた。話し合いで、心情を自分の言葉で表現することに課題が残った。
7/13	中3 保健体育 南雲教諭、阿部香養護教諭 「喫煙の害と健康」	○主体的な調べ学習により健康への考えを深める工夫 ・教師がキーワードを提示することで適した内容を調べることができた。より深く調べたり、問い直しの課題を解決したりするための時間を確保できなかった。
8/29	全⑤・授業研究会の報告 校②・B訪問指導案検討	○B訪問指導案の検討
9/7	授業実践 小1 国語 金井教諭 「やくそく」	○役割演技をして登場人物の気持ちを想像させる工夫 ・役割演技により、登場人物の気持ちを想像し、異なる意見を出し合い共有できた。考えの根拠を明確にすることに課題が残った。
9/26	全⑥・B訪問授業研究会について 校③・B訪問指導案検討	○B訪問授業研究会について ○B訪問指導案の検討
10/7	指導主事訪問B 小4 国語 星野教諭 「ごんぎつね」 	○課題設定を児童とともにやり、問いかけで深める工夫 ・単元の課題設定を児童とともに行っていたのがよかった。教師のゆさぶりの発問が効果的だった。さらに児童同士の深め合いがあるとよい。
	中1 数学 千明教諭 「データの活用」	○意見交流でデータの活用について考えを深める工夫 ・テーマ設定が生徒の興味関心を引き、既習事項を活用する内容だった。意見交流から、多様な考えを出すことに課題が残った。
10/17	全⑦・B訪問授業研究会について 校④・教育水準向上研究授業指導案検討	○B訪問授業研究会の行い方について ・次年度に向けて、班編制の工夫と考慮点 ○教育水準向上研究授業指導案検討

11/1	全⑧・教育水準向上研究授業指導案検討	○教育水準向上研究授業指導案検討
11/17	市中教育水準向上研究 中2英語 高山教諭 「PROGRAM6 Live Life in True Harmony」 	○ルーブリックと思考ツールを用い、見通しをもった学習への取り組みと、視点を明確にした話合いの工夫 ・手立てにより、思考を視覚化し見通しをもった学習に繋げることができた。よりよくするためヒントカード、教師の助言、資料の提示、視点の提示等があるとよい。
	中3理科 阿部教諭 「エネルギーと仕事」	○実験データをもとに話し合いを深める工夫 ・仮説を立てたことで話し合いが活性化し、スプレッドシートを用いることで話し合いの時間を確保できた。深く考えるためには教師の問い返し力が大切である。
11/28	授業実践 小6 国語 小林教諭 「やまなし」 資料「イーハトーヴの夢」	○ロイロノートの共有機能を活用し考えを交流する工夫 ・考えを簡潔に表し、根拠と理由を示しながら交流することは有効であった。話し合いの視点の明確化や切り返しの発問があるとさらに話し合いが充実する。
12/12	全⑨・授業研究会の報告 ・紀要原稿の作成について	○ジャムボードの授業研究会報告と校内研修報告書作成について
12/15	授業実践 中2 美術 福島教諭 「美しくデザインされた文字」	○小グループで課題に取り組ませる工夫 ・ロイロノートを活用して分類したり収集したりという活動がデザインに反映されていた。意見交流の後にICTを使う方がより活発な活動になったと思われる。
適宜	紀要原稿の作成	
1/16	授業実践 小6 社会 井上教諭 「新しい日本、平和な日本へ」	○教師の切り返しによって、思考を深め広げる工夫 ・児童の発言やつぶやきに対して切り返すことで、思考の深まりや広がりが見られた。多様な考えを短時間に交流させる工夫がさらに必要である。
1/16	中1 国語 佐藤教諭 「それだけでいい」	○学習形態によって、考えを広げ深める工夫 ・個別から集団で話し合うことで考えに確信を得たり付け足したりする姿が見られた。多様な意見を引き出すために意図的な発問や問い返しが必要である。
1/23	全⑩・実践の振り返りとまとめ 班③・授業研究会の報告 ・次年度構想の検討	○今年度の研究の成果と課題 ・実践を振り返り、成果と課題を明確にする。 ○次年度の研究内容について ・成果と課題を基に、次年度の構想を検討する。
2/24	全⑪・次年度の校内研修の方向性	○研修主題、副主題（案）作成

※資質向上研修

月日	区分	講師	内容
5/16 (月)	保健に関する研修	消防署員	・心肺蘇生法講習、アレルギー対応の仕方
6/13 (月)	メンター研修		・国語デジタル教科書の機能と操作方法
9/10 (土)	メンター研修		・よりよい運動会を目指して
毎月	服務規律研修	服務規律担当	・服務規律について

< 職員一覧 >

職名	氏名	職名	氏名
校長	田部井 由美子	教諭	南 雲 寛 樹
教頭	藤 井 常 夫	教諭	佐 藤 尚 樹
教諭	阿 部 万 里 子	養護教諭	阿 部 香 織
教諭	福 島 栄 典	主幹事務長代理	星 野 恵 美
教諭	高 山 誠	非常勤講師	林 徹 志
教諭	千 明 春 香	S C	青 木 美 穂 子
教諭	宮 内 国 大		